

せとごえ第13号

---

# 長崎労災病院年報

## 2023

---





# I 病院の概況

まえがき	3
1. 配置図	4
2. 沿革	5
3. 特色	5
4. 医療環境等	6
5. 理念・基本方針	6
6. 医療に関する各種指定・承認等	7
7. 組織図	11
8. 広報誌の発行	12





## まえがき

独立行政法人 労働者健康安全機構  
長崎労災病院 院長 酒井 英樹



長崎労災病院は2023年、「ヘルシーエイジングに取り組む長崎労災病院」をスローガンに掲げ、地域の人々が健康的に歳を重ねるための医療を推し進めています。

日本人の平均寿命は、男性が81.05歳、女性が87.09歳ですが（2022年）、統計が開始された1890年代には男性が42.8歳、女性が44.3歳でした。つまり、平均寿命はこの約130年間に2倍近く伸びたことになり、今や人生100年時代とも言われています。一方、出生数の減少に伴い総人口は12年連続で減少していますが、65歳以上の高齢者人口は増え続け、働く高齢者も年々増えています。そうした中で、単なる寿命ではなく、健康で自立した状態で生活する「健康寿命」をいかにして延ばすかが、人生100年時代の大きな課題です。

国連は2020年12月14日に、2021年から2030年までの10年間を「ヘルシーエイジングのための10年間」と設定しました。世界的に人口の高齢化が加速する中、人々と家族、そして地域社会が健康的に歳を重ねるために、10年をかけて、政府、市民社会、国際機関、専門家、アカデミア、報道機関、民間セクター等の協調行動を促すものです。世界の平均寿命は、この50年間に約15年延びたことから、この得られた15年間を価値あるものにするために、私たちが取り組むべき課題は少なくありません。

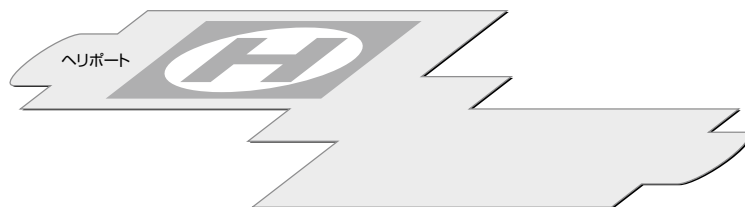
長崎労災病院は疾病の予防から治療、リハビリテーション、職場復帰に至る一貫した専門的医療を提供しています。当院は佐世保市の二次救急病院であるとともに、地域包括ケア病床を活用して、病状が安定した患者に対するリハビリテーションを効率的に行い、在宅復帰や職場復帰の支援を行っています。さらに、健康診断部の人間ドックにおいて、がんの二次予防や生活習慣病の予防に取り組んでいます。このような当院の特性を活かし、労災病院の使命である「勤労者医療の充実」に努め、地域の医療機関としてヘルシーエイジングに貢献したいと考えています。

このたびお届けする「せとごえ」は内容を一新しました。これまでは、学会発表や論文発表を中心に編集し、業績集として2～3年に1回発行してきましたが、この第13号からは年報として毎年発行することにしました。各診療科・部門別の特色、診療・運営方針、診療実績、スタッフ紹介等を新たにに加え、1年間の当院の活動状況を1冊にまとめました。この毎年の活動記録の中に課題を見つけ、新たな目標を定めて全職員が切磋琢磨することを願っています。また、関係する医療機関の皆様が当院の取り組みや成果を評価していただけるように、わかりやすい情報発信とともに内容の充実に努めてまいります。新しくなった「せとごえ」に目を通していただければ幸いです。

1. 配置図

屋上

●ヘリポート



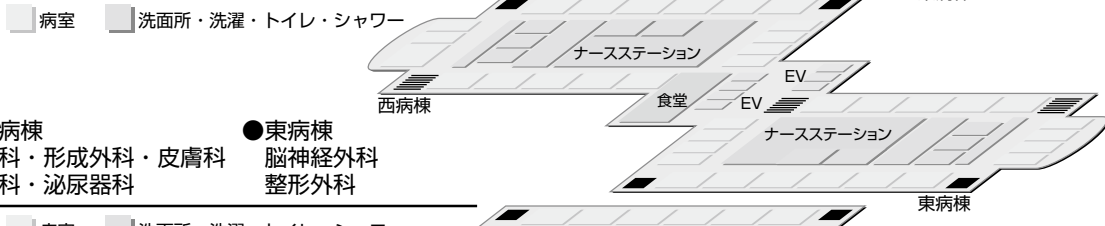
7F

●西病棟 循環器内科・整形外科  
●東病棟 内科・麻酔科  
リハ訓練室



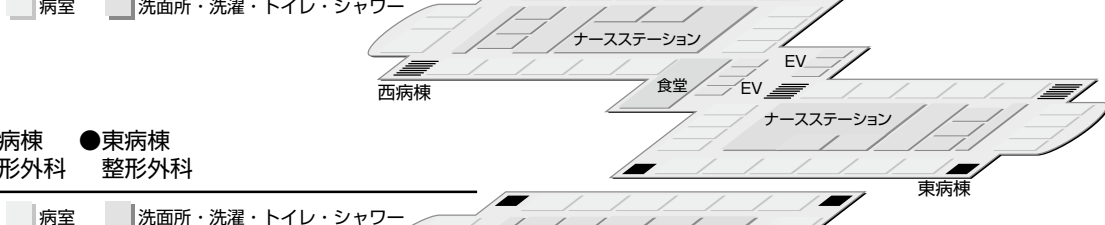
6F

●西病棟 外科・形成外科・皮膚科  
●東病棟 脳神経外科  
内科・泌尿器科 整形外科



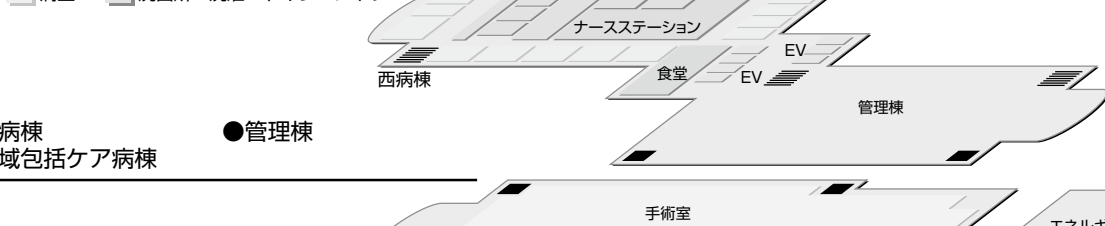
5F

●西病棟 整形外科  
●東病棟 整形外科



4F

●西病棟 地域包括ケア病棟  
●管理棟



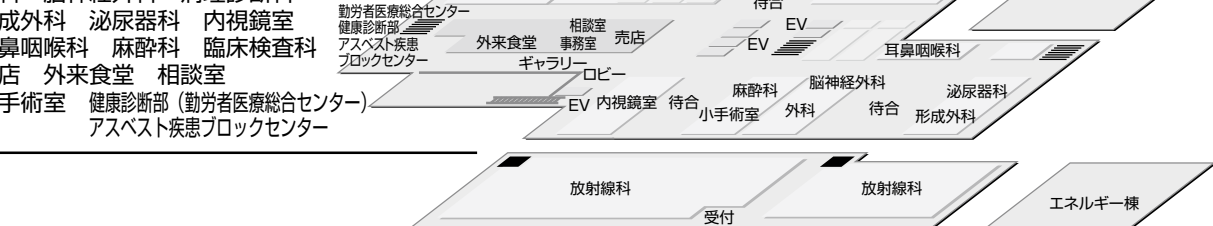
3F

●手術室 3西病棟(ICU)  
●管理棟 家族待合室



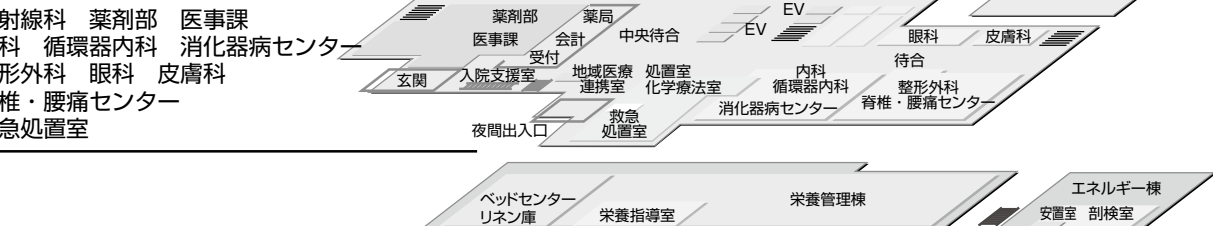
2F

●外科 脳神経外科 病理診断科  
形成外科 泌尿器科 内視鏡室  
耳鼻咽喉科 麻酔科 臨床検査科  
売店 外来食堂 相談室  
小手術室 健康診断部(勤労者医療総合センター)  
アスベスト疾患ブロックセンター



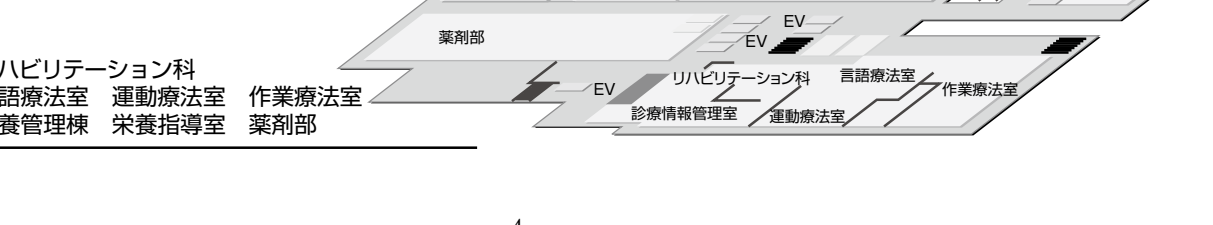
1F

●放射線科 薬剤部 医事課  
内科 循環器内科 消化器病センター  
整形外科 眼科 皮膚科  
脊椎・腰痛センター  
救急処置室



B1

●リハビリテーション科  
言語療法室 運動療法室 作業療法室  
栄養管理棟 栄養指導室 薬剤部



## 2. 沿革

- 1957年 5月：3診療科（内科・外科・整形外科）100床をもって開設。
- 1959年 6月：東側病棟が増築され病床数が214床に増床。
- 1964年 5月：増築工事が完成し、同年9月には病床数が300床に増床。
- 1981年 10月：職業性疾患の予防と早期発見を期するため健康診断部を設立。
- 1982年 3月：13診療科350床となり県北地区で有数の病院となった。
- 1998年 11月：新病院完成。
- 1999年 5月：勤労者脊椎・腰痛センターを設立。
- 2001年 11月：勤労者脳卒中センターを設立し、診療機能の一層の強化を図る。
- 2002年 4月：勤労者予防医療部を設立し、勤労者の職業性疾患や生活習慣病の予防面にも積極的な取り組みを開始。
- 2004年 4月：独立行政法人労働者健康福祉機構へ移行するとともに、勤労者医療の更なる充実に向けて地域医療連携室及び勤労者予防医療部を整備。また、新規に労災疾病研究室を設置し、これら各部門を統括するため勤労者医療総合センターを設立。
- 2005年 9月：アスベスト疾患ブロックセンターを設置。アスベスト暴露者、アスベスト関連疾患患者を対象に地域医療機関と連携しながら健康相談、健康診断、診断・治療を行うとともに、アスベスト関連疾患に係る症例収集を行い、ブロック内の労災病院と協力して、労災指定医療機関等の地域医療機関への支援を広域的に行う等、更なる勤労者医療、地域医療の充実を目指している。
- 2009年 3月：長崎県からDMA T指定病院に認定。
- 2012年 3月：長崎県から地域医療支援病院に認定。
- 2014年 4月：勤労者予防医療部から治療就労支援センターに改称し、勤労者医療の更なる充実に向けて、これまでの活動に加えて、予防医療モデル事業、治療就労両立支援モデル事業の取り組みを開始。
- 2015年 2月：長崎県から地域災害拠点病院に認定。
- 2015年 12月：救急科・臨床検査科を診療科目に追加し、15診療科体制となった。
- 2016年 4月：独立行政法人労働者健康福祉機構と独立行政法人労働安全衛生総合研究所が統合し、独立行政法人労働者健康安全機構として名称を変更する。
- 2017年 12月：長崎県から原子力災害医療協力機関に登録。
- 2018年 4月：長崎県から地域脳卒中センターに認定。
- 2020年 1月：病理診断科を診療科目に追加し、16診療科体制となった。

## 3. 特色

当院は県北域の佐世保市北部に位置し、佐賀県との県境にも接することから、診療圏としては、佐世保市（離島を含む）はもとより、県北の平戸市、松浦市、佐々町、さらには佐賀県の伊万里市、有田町方面におよび、西九州地区における基幹病院として位置づけられている。

従前から整形外科や脳神経外科など外科系を主体とした病院であり、特に整形外科は手術件数も多く臨床実績が豊富であることから、近隣の病院からの紹介も多く、厚い信頼を得ている。また、2005年6月には「手の外科」、2008年4月には「関節外科」「脊椎外科」「股関節外科」専門領域を明確にするとともに、高度な最新医療による整形外科系の全ての疾患に対応できる体制としている。

脳神経外科においても直達手術としての実績・技術は全国水準でも高いレベルを保持しており、地域の信頼も厚く紹介率も高い。また、2005年7月から「脳血管内外科」を開設し、治療体制の充実を図っている。

2014年4月に「救急集中治療科」、2015年4月に「感染症内科」、2018年4月に「総合内科」を院内標榜している。また、2015年12月に「救急科」を診療科目に追加し、専門医による治療体制を整えた。

#### 4. 医療環境等

当院は長崎県の八つの二次医療圏の一つである佐世保県北医療圏にあり、勤労者医療は勿論、県北を中心とする地域医療の中核病院として貢献している。

当医療圏は、人口 321,860 人（県内の 23.6%）、であり、8 圏域の中では、長崎医療圏 (527,277 人) に次いで 2 番目の人口となっているが、長崎県の人口は減少傾向にあり、年齢構成別では、特に若年層の減少が顕著になっており、2025 年には、65 歳以上の人口が 44 万人となり、全体の 35% を占めると推測される。

長崎県の出生数及び出生率（人口千人に対する 1 年間の出生数）は、全国平均同様減少傾向（2016 年度出生率：全国平均 7.8 人、長崎県 8 人）であり、2016 年度の出生数は 10,886 人で、1985 年度と比較して約 5 割、2005 年度と比較して約 1 割減少している。

近年長崎県の死亡数及び人口あたりの死亡者数は増加しており、人口 10 万対の死亡者数は 12.6 人と、全国平均（10.5 人）を上回っており、死亡者数の死因別の内訳をみると、悪性新生物（がん）が最も多く、全体の 25% 以上を占めている。

2016 年度における年齢構成別の受療率では、長崎県は入院、外来ともに全国を上回っている。特に入院の受療率が高く、全国と比較して、総数で約 1.7 倍となっている。（人口 10 万人あたりの患者数 入院：全国平均 4,205 人 長崎県 6,386 人 外来：全国平均 11,906 人 長崎県 13,625 人）

2016 年度における長崎県の 75 歳以上の入院患者の疾病別の内訳では、循環器系の疾患（心疾患、脳疾患）、精神及び行動の障害（統合失調症等）、神経系の障害（アルツハイマー病等）、損傷（骨折等）が多くなっている。

長崎県の地域医療構想による佐世保県北医療圏の 2025 年の必要病床数と 2016 年の病床機能報告と比較すると、急性期と報告されている病床が多く、回復期と報告されている病床が不足している。また、慢性期病床数が多くなっている（下図参照）。

地域医療構想の実現にあたっては、病床機能報告における機能区分ごとの病床数と、将来の目安となる必要病床数との比較や、必要病床数の現在から将来に向けての増減等を見据え、地域において十分に協議を行い、病床の医療機能の分化・連携を進めていくこととなる。

当院においては、2017 年 11 月に地域医療構想を踏まえた公的医療機関等 2025 プランを作成し、急性期ケアミックス型機能として、急性期領域と回復期機能を維持していく方向性を示した。

新型コロナウイルス感染症の対応は当院でも診療体制に大きく影響した。特に 2022 年 12 月 8 日から 2 週間は大規模クラスターで延べ 100 人を超え、災害本部を立ち上げたほどであった。PCR 等検査は 1,000 件を超え、周辺医療機関には感謝の念が絶えないが、転院受入れを 22 名請け負って頂き乗り越えることができた。

佐世保県北区域	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
2016 年病床機能報告 (①)	341	2,344	760	1,518	4,963
2025 年必要病床数 (②)	319	1,086	1,242	864	3,511
差 (①-②)	22	1,258	▲ 482	654	1,452

(※ 2018 年 3 月 長崎県第 7 次医療計画より)

#### 5. 理念・基本方針

○ 独立行政法人労働者健康安全機構の理念・行動指針

##### 【理 念】

「勤労者医療の充実」「勤労者の安全向上」「産業保健の強化」

我が国の産業・経済の礎を維持、発展させるとともに、勤労者一人ひとりの人生を支える大きな役割を担っています

##### 【行動指針】

- (1) 一般医療を基盤とした勤労者医療を常に先取りし、実践していきます
- (2) 健康で安全な職場を構築する研究などを進めます

- (3) 全ての勤労者の健康維持と安全向上に貢献します
- (4) 高い倫理観と社会規範のもとに行動します
- (5) 機構（労災病院群、労働者安全衛生総合研究所、日本バイオアッセイ研究センター、産業保健総合支援センターなど）内の連携や協働を進めます
- (6) 経営基盤の安定を図ります

○ 独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院の理念・基本方針

【理 念】

勤労者と地域の皆様に良質な医療を提供します

【基本方針】

- (1) 人権を尊重した患者中心の医療の実践
- (2) チーム医療に基づいた安全で専門的な医療の推進
- (3) 地域に根づいた急性期医療の提供
- (4) 早期社会復帰への支援
- (5) 予防医療による健康づくりへの貢献
- (6) 治療と仕事の両立支援及び産業保健活動の推進

## 6. 医療に関する各種指定・承認等

・ 指定医療機関に関する事項

- |               |   |
|---------------|---|
| 1957年 5月 20日  | 健康保険法による保健医療機関の指定                       |
| 1957年 5月 20日  | 国民健康保険法による療養取扱機関の指定                     |
| 1957年 7月 1日   | 結核予防法に基づく医療機関の指定                        |
| 1957年 7月 1日   | 身体障害者福祉法に基づく医療機関の指定                     |
| 1957年 12月 13日 | 更正医療を担当する医療機関の指定                        |
| 1958年 1月 1日   | 生活保護法に基づく医療機関の指定                        |
| 1960年 9月 1日   | 被爆者一般疾病医療機関の指定                          |
| 1965年 6月 1日   | 労災リハビリテーション医療実施施設の指定（理学療法）              |
| 1973年 4月 1日   | 労災リハビリテーション医療実施施設の指定（作業療法）              |
| 1988年 11月 8日  | 原子爆弾被爆者援護に基づく指定医療機関                     |
| 1995年 9月 4日   | 救急告示病院の指定                               |
| 2005年 9月 14日  | 臨床研修病院（基幹型）の指定                          |
| 2008年 4月 1日   | インテグロ治療に係る医療費助成に係る診断書作成医療機関の指定（長崎県・佐賀県） |
| 2009年 3月 20日  | DMA T指定病院（長崎県）                          |
| 2012年 3月 26日  | 地域医療支援病院の承認                             |
| 2015年 2月 2日   | 地域災害拠点病院の指定                             |
| 2017年 12月 28日 | 原子力災害医療協力機関の登録                          |
| 2018年 4月 1日   | 地域脳卒中センターの認定                            |
| 2023年 4月 1日   | 臨床研修病院（基幹型）の指定                          |

・ 施設基準に関する事項

- |              |                                 |
|--------------|---------------------------------|
| 2022年 4月 1日  | 一般病棟7対1入院基本料（一般入院）第7号           |
| 2008年 4月 1日  | 超急性期脳卒中加算（超急性期）第8号              |
| 2019年 4月 1日  | 診療録管理体制加算1（診療録1）第44号            |
| 2019年 5月 1日  | 医師事務作業補助体制加算1（事補1）第38号          |
| 2019年 6月 1日  | 急性期看護補助体制加算（25対1）5割以上（急性看護）第35号 |
| 2022年 10月 1日 | 急性期看護補助体制加算（夜間100対1）（急性看護）第35号  |
| 2022年 10月 1日 | 急性期看護補助体制加算（夜間看護体制加算）（ ）        |

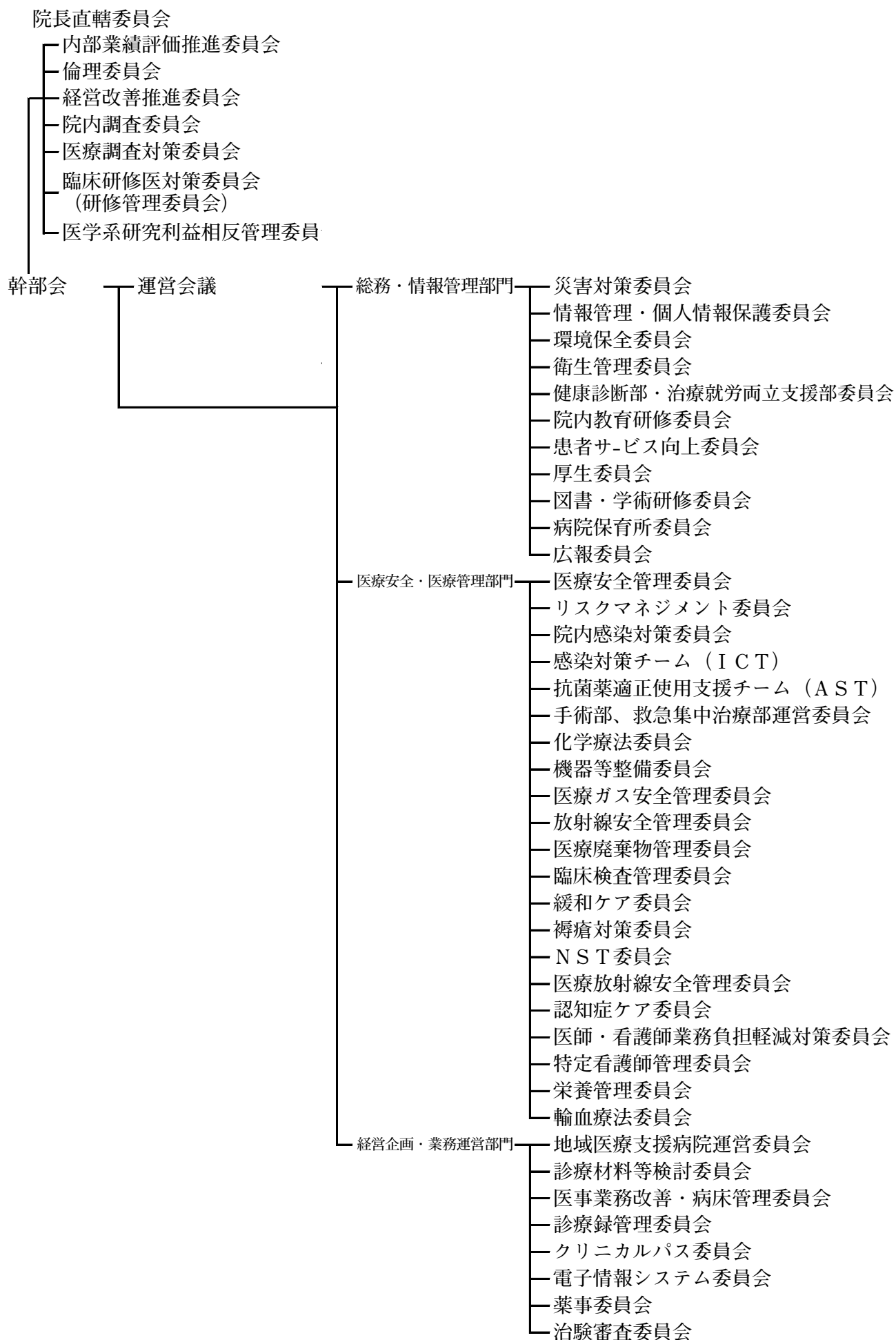
2022年 11月 1日 急性期看護補助体制加算（看護補助体制充実加算）（ 〃 ） 〃  
 2022年 10月 1日 看護職員夜間配置加算1（看夜配）第20号  
 2021年 3月 1日 重症者等療養環境特別加算（重）第29号  
 2018年 9月 1日 栄養サポートチーム加算（栄養チ）第37号  
 2018年 4月 1日 医療安全対策加算1（医療安全1）第9号  
 医療安全対策地域連携加算1（ 〃 ） 〃  
 2022年 4月 1日 感染対策向上加算1（感染対策1）第3号  
 感染対策向上加算・指導強化加算（ 〃 ） 〃  
 2013年 5月 1日 患者サポート体制充実加算（患サポ）第36号  
 2022年 7月 1日 重症患者初期支援充実加算（重症初期）第5号  
 2023年 6月 1日 報告書管理体制加算（報告管理）第9号  
 2014年 12月 1日 褥瘡ハイリスク患者ケア加算（褥瘡ケア）第11号  
 2019年 1月 1日 呼吸ケアチーム加算（呼吸チ）第7号  
 2022年 4月 1日 後発医薬品使用体制加算1（後発使1）第96号  
 2012年 10月 1日 データ提出加算2（データ提）第7号  
 2022年 10月 1日 入退院支援加算（加算1）・地域連携診療計画加算（入退支）第28号  
 入退院支援加算（加算1）・入院時支援加算（入退支）第28号  
 2023年 6月 1日 認知症ケア加算2（認ケア）第35号  
 2020年 5月 1日 せん妄ハイリスク患者ケア加算（せん妄ケア）第25号  
 2020年 4月 1日 排尿自立支援加算（排自支）第8号  
 2020年 4月 1日 地域医療体制確保加算（地医確保）第3号  
 2022年 10月 1日 特定集中治療室管理料3（集3）第26号  
 早期離床・リハビリテーション加算（ 〃 ） 〃  
 2022年 10月 1日 地域包括ケア病棟入院料2（地包ケア2）第7号  
 2023年 7月 1日 看護職員処遇改善評価料57（看処遇57）第2号  
 1960年 5月 20日 入院時食事療養（I）（食）第12号  
 2020年 6月 1日 外来栄養食事指導料（外来食指）第4号  
 2010年 4月 1日 がん性疼痛緩和指導管理料（がん疼）第21号  
 2022年 4月 1日 がん患者指導管理料イ（がん指イ）第3号  
 2014年 4月 1日 がん患者指導管理料ロ（がん指ロ）第7号  
 2019年 8月 1日 がん患者指導管理料ハ（がん指ハ）第12号  
 2023年 9月 1日 がん患者指導管理料ニ（がん指ニ）第8号  
 2022年 6月 1日 二次性骨折予防継続管理料1（二骨管1）第16号  
 2022年 6月 1日 二次性骨折予防継続管理料2（二骨継2）第17号  
 2022年 6月 1日 二次性骨折予防継続管理料3（二骨継3）第31号  
 2022年 10月 1日 下肢創傷処置管理料（下創管）第12号  
 2014年 11月 1日 院内トリアージ実施料（トリ）第15号  
 2020年 4月 1日 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算（救搬看護体）第9号  
 2022年 4月 1日 外来腫瘍化学療法診断料1（外化診1）第7号  
 2022年 4月 1日 外来腫瘍化学療法診断料・連携充実加算（外化連）第16号  
 2023年 4月 1日 ニコチン依存症管理料（ニコ）第319号  
 2018年 4月 1日 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制加算（両立支援）第2号  
 2020年 4月 1日 外来排尿自立指導料（外排自）第8号  
 2010年 4月 1日 肝炎インターフェロン治療計画料（肝炎）第11号  
 2010年 4月 1日 薬剤管理指導料（薬）第22号  
 2008年 4月 1日 医療機器安全管理料1（機安1）第15号  
 2016年 2月 1日 在宅療養後方支援病院（在後病）第6号

2021年12月1日	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料（在電場）第3号
2023年6月1日	BRCA1/2 遺伝子検査（BRCA）第17号
2022年10月1日	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（ウ細多同）第5号
2015年3月1日	検体検査管理加算Ⅳ（検Ⅳ）第13号
2008年4月1日	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算（血内）第11号
2020年4月1日	ヘッドアップティルト試験（ヘッド）第18号
2017年5月1日	神経学的検査（神経）第31号
2023年4月1日	前立腺針生検法 MRI 撮影および超音波検査融合画像によるもの（前立腺）第1号
2020年4月1日	CT撮影及びMRI撮影（C・M）第236号
2010年4月1日	抗悪性腫瘍剤処方管理加算（抗悪処方）第4号
2012年3月1日	外来化学療法加算1（外化1）第38号
2003年6月1日	無菌製剤処理料（菌）第9号
2012年6月1日	心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ・初期加算（心Ⅰ）第9号
2012年6月1日	脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ・初期加算（脳Ⅰ）第14号
2012年6月1日	運動器リハビリテーション料Ⅰ・初期加算（運Ⅰ）第45号（呼Ⅰ）第41号
2022年4月1日	摂食嚥下機能回復体制加算2（摂嚥回2）第2号
2016年3月1日	がん患者リハビリテーション料（がんリハ）第33号
2023年5月1日	硬膜外自家血注入（血入）第2号
2023年4月1日	臨床研修病院入院診療加算
2023年9月1日	紹介受診重点医療機関入院診療加算
2015年2月1日	療養環境加算（療）第18号
2022年7月1日	骨折観血的手術（緊急整復固定加算）（緊整固）第5号
2022年7月1日	人工骨頭挿入術（緊急挿入加算）
2018年4月1日	後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）（後縦骨）第1号
2020年4月1日	椎間板内酵素注入療法（椎酵注）第5号
2002年5月1日	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む） 及び脳刺激装置交換術（脳刺）第8号
2001年9月1日	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術（脊刺）第3号
2023年5月1日	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術（内下）第3号
2023年5月1日	内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
2023年5月1日	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術（内甲悪）第2号
2023年5月1日	内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
2012年5月1日	乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算）（乳セ）第11号
2017年1月1日	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの） 及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）（乳腫）第3号
1998年4月1日	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（ペ）第41号
1998年4月1日	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（大）第15号
2018年12月1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術（早大腸）第19号
2023年2月1日	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（腎）第26号
2023年2月1日	膀胱水圧拡張術、ハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）（膀胱ハ間）第12号
2022年7月1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（腹膀）第8号
2014年4月1日	胃瘻造設術（胃瘻造）第3号
2011年3月1日	輸血管理料Ⅱ（輸血Ⅱ）第10号
2015年5月1日	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算（造設前）第18号
2020年11月1日	胃瘻造設時嚥下機能評価加算（胃瘻造嚥）第45号
2019年5月1日	麻酔管理料Ⅰ（麻管Ⅰ）第29号
2016年4月1日	麻酔管理料Ⅱ（麻管Ⅱ）第6号

・研修等施設学会承認

日本内科学会認定医制度教育関連病院  
日本呼吸器学会認定施設  
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設  
日本消化器病学会専門医制度関連施設  
日本肝臓学会専門医制度関連施設  
日本感染症学会認定研修施設  
日本循環器学会循環器専門医研修施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本外科学会外科専門医制度修練施設  
日本消化器外科学会専門医制度関連施設  
日本胆道学会指導施設  
日本乳癌学会専門医制度認定施設  
日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本脊椎脊髄病学会クリニカルフェロー研修施設  
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設  
日本形成外科学会認定医研修施設  
日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設  
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設  
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院  
日本脳ドック学会認定脳ドック施設  
マンモグラフィ検診施設・画像認定施設  
日本麻酔学会麻酔科認定病院  
日本集中治療医学会専門医研修施設  
日本ペインクリニック学会指定研修施設  
日本救急医学会救急科専門医指定施設  
日本病理学会病理専門医制度規定による日本病理学会研修登録施設

## 7. 病院運営組織図（各種委員会等）



## 8. 広報誌の発行

現在、開業医師および地域住民への広報誌「ろうさいひろば」を年4回発行している。  
「ろうさいひろば」の初回発行 2002年4月発行部数 1,000部

2024年1月発行 季刊 冬号 (A4判フルカラー 8頁)

# ろうさいひろば

**For Healthy Aging , nagasaki rosai hospital**  
～私たちはヘルシーエイジングに取り組んでいます～

### Contents

新年のご挨拶 院長 酒井 英樹 .....	2
医療トピックス 呼吸器内科部長 山領 豪 .....	3
Healthy Aging～尿失禁について～ 泌尿器科医師 左川 遼 .....	4
長崎労災病院 健康フェスタ 復活! .....	5
歯科衛生士がおすすめる口腔ケアについて Vol.3 ..	6
CT・MRI検査枠変更のお知らせ .....	6
MRI室工事のお知らせ .....	6
中央リハビリテーション部だより【vol.4】 .....	7
私の趣味「パン作り」 .....	7
各科外来診療担当医師一覧表 .....	8

独立行政法人 労働者健康安全機構  
**長崎労災病院 | 広報誌**

季刊 冬号  
2024.1

**病院の理念と基本方針**

【理念】  
『勤労者と地域の皆様に良質な医療を提供します』

【基本方針】

1. 人権を尊重した患者中心の医療の実践
2. チーム医療に基づいた安全で専門的な医療の推進
3. 地域に根づいた急性期医療の提供
4. 早期社会復帰への支援
5. 予防医療による健康づくりへの貢献
6. 治療と仕事の両立支援及び産業保健活動の推進

【看護部 理念】  
対象のいのち・暮らしに寄り添い、誠実な看護を提供します。



「瀬電ヶ滝 不動明王像」 © photo ac

## Ⅱ 業務統計

患者数の推移（入院・外来）	15	手術件数の推移（手術室内）	20
診療科別入院患者数の推移	15	全身麻酔件数の推移	21
診療科別外来患者数（2023年）	16	化学療法件数の推移（入院・外来）	21
紹介率・逆紹介率の推移	17	解剖件数の推移	22
病床利用率の推移	17	後発医薬品指数（2023年）	22
平均在院日数の推移	18	DPC14 桁 診断郡分類上位頻度表（全科共通）	23
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	19	DPC6 桁 診断郡分類上位頻度表（全科共通）	23
救急車受入件数（総数と1日平均）	20		





## ■患者数の推移（入院・外来）

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入 院	承認病床数 (床)	350	350	350	350	350
	稼働病床数 (床)	350	350	350	350	350
	入院患者延数 (人)	100,240	94,983	80,142	78,634	89,978
	1日平均患者数 (人)	274.6	259.5	219.6	215.4	246.5
	病床利用率 (%)	78.5	74.1	62.7	61.6	70.4
	新入院患者数 (人)	6,010	5,462	4,856	4,884	5,535
	退院患者数 (人)	5,985	5,487	4,874	4,907	5,510
	平均在院日数 (日)	16.7	17.4	16.5	16.1	16.3
外 来	外来患者延数 (人)	83,732	74,401	73,314	71,352	71,912
	1日平均患者数 (人)	348.9	308.7	301.7	294.8	293.5
	新外来患者数 (人)	14731	12828	12532	13049	11730
	新患率 (%)	17.6	17.2	17.1	18.3	16.3
	紹介率 (%)	84.5	84.8	87.2	80.1	88.1
	逆紹介率 (%)	84.0	73.3	65.4	71.6	90.1
救急車搬送件数 (人)	2,559	2,403	2,287	2,449	2,585	

## ■診療科別入院患者数の推移

(単位：人)

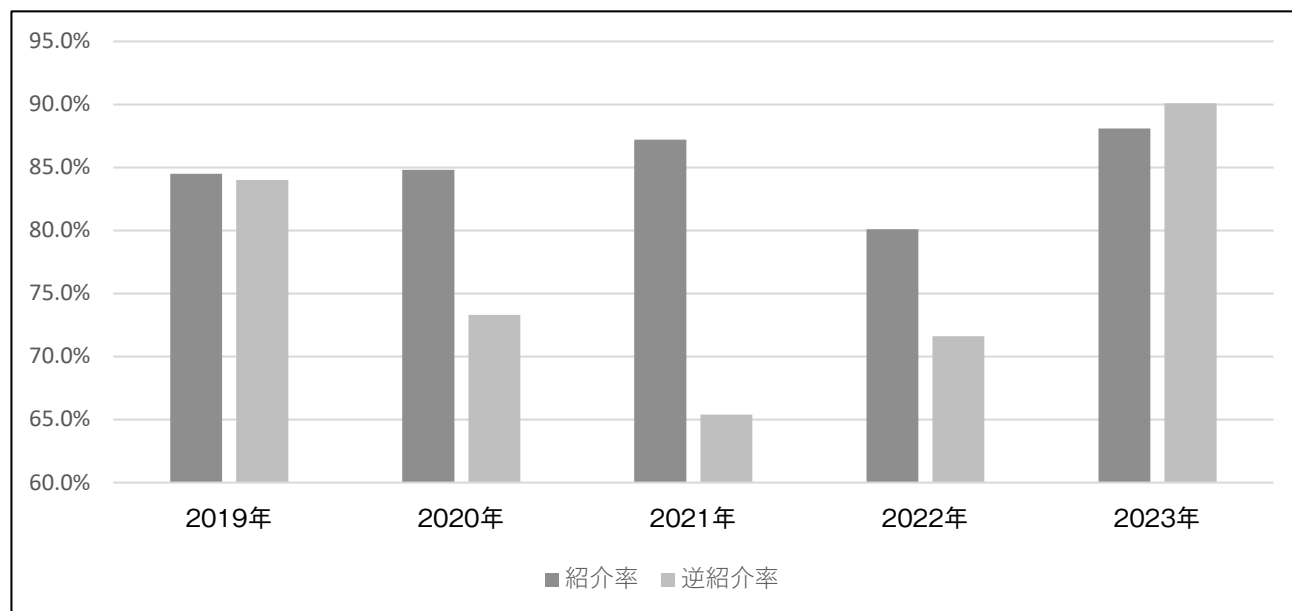
	2021年				2022年				2023年			
	入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	12,204	33.4	984	2.7	16,158	44.3	1,237	3.4	17,936	49.1	1,322	3.6
循環器内科	4,362	12.0	284	0.8	4,010	11.0	271	0.7	4,266	11.7	286	0.8
外 科	6,488	17.8	671	1.8	6,163	16.9	633	1.7	7,434	20.4	632	1.7
整形外科	44,943	123.1	2,185	6.0	40,606	111.2	1,929	5.3	47,875	131.2	2,359	6.5
形成外科	888	2.4	68	0.2	933	2.6	61	0.2	980	2.7	69	0.2
脳神経外科	10,862	29.8	591	1.6	9,234	25.3	545	1.5	8,622	23.6	525	1.4
皮 膚 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌尿器科	320	0.9	39	0.1	1,328	3.6	150	0.4	2,538	7.0	281	0.8
眼 科	0	0.0	0	0.0	39	0.1	3	0.0	14	0.0	4	0.0
耳鼻咽喉科	0	0.0	0	0.0	65	0.2	6	0.0	3	0.0	1	0.0
リハ科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
麻 酔 科	75	0.2	34	0.1	98	0.3	49	0.1	310	0.8	56	0.2
合 計	80,142	219.6	4,856	13.3	78,634	215.4	4,884	13.4	89,978	246.5	5,535	15.2

■診療科別外来患者数（2023年）

	新患	再来	合計	一日平均患者数		
				新患	再来	合計
内 科	1,771	9,928	11699	7.2	40.5	47.8
循 環 器 内 科	640	4,210	4850	2.6	17.2	19.8
外 科	575	4,342	4917	2.3	17.7	20.1
整 形 外 科	3,968	24,934	28902	16.2	101.8	118.0
形 成 外 科	452	2,028	2480	1.8	8.3	10.1
脳 神 経 外 科	1,051	3,856	4907	4.3	15.7	20.0
皮 膚 科	180	1,236	1416	0.7	5.0	5.8
泌 尿 器 科	558	4,570	5128	2.3	18.7	20.9
眼 科	94	1,326	1420	0.4	5.4	5.8
耳 鼻 咽 喉 科	151	758	909	0.6	3.1	3.7
リ ハ 科	0	0	0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	339	54	393	1.4	0.2	1.6
麻 酔 科	485	2,793	3278	2.0	11.4	13.4
医 療 相 談 科	1,466	147	1613	6.0	0.6	6.6
合 計	11730	60182	71912	47.9	245.6	293.5

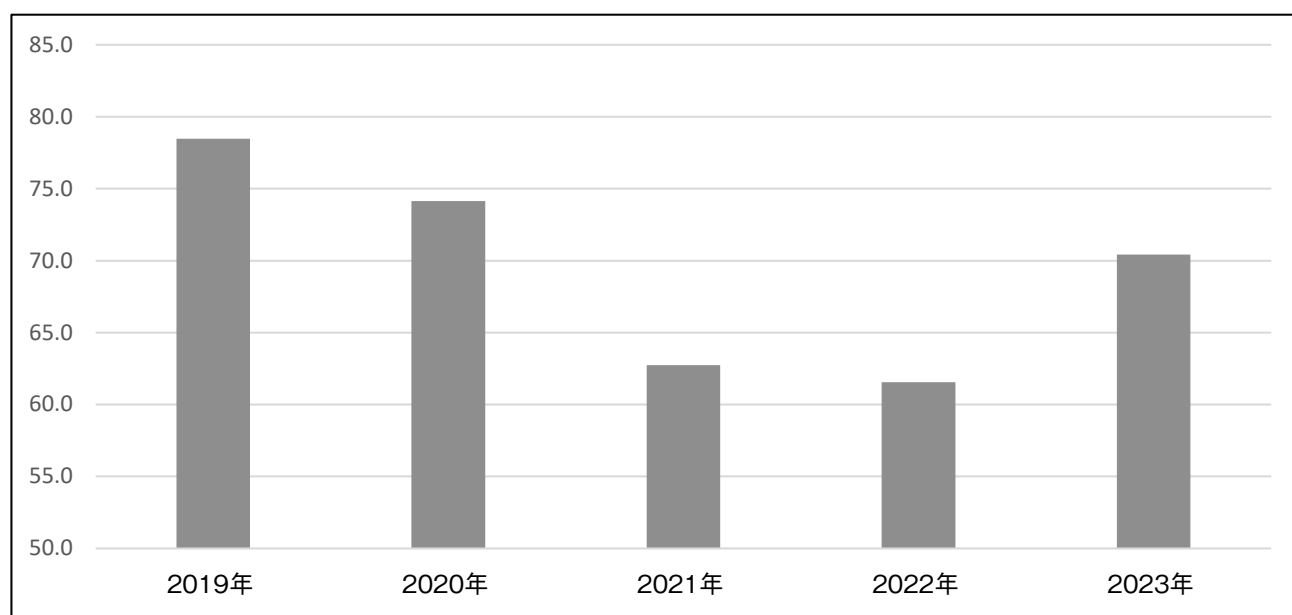
## ■紹介率・逆紹介率の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
紹介率 (%)	84.5	84.8	87.2	80.1	88.1
逆紹介率 (%)	84.0	73.3	65.4	71.6	90.1



## ■病床利用率の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
病床利用率 (%)	78.5	74.1	62.7	61.6	70.4



■平均在院日数の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内 科	13.2	14.8	12.4	13.1	13.6
循 環 器 内 科	13.9	15.8	15.4	14.8	14.9
外 科	11.5	10.7	9.7	9.7	11.8
整 形 外 科	21.8	20.8	20.6	21.0	20.3
形 成 外 科	11.3	13.0	13.0	15.4	14.1
脳 神 経 外 科	17.4	19.1	18.4	17.0	16.4
皮 膚 科	9.0	15.7	－	－	－
泌 尿 器 科	4.5	3.7	8.2	8.9	9.0
眼 科	－	－	－	13.0	3.5
耳 鼻 咽 喉 科	－	－	－	10.8	3.0
リ ハ 科	－	－	－	－	－
麻 酔 科	2.3	5.3	2.2	2.0	5.6
合 計	16.7	17.4	16.5	16.1	16.3

## ■時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移

(単位：人)

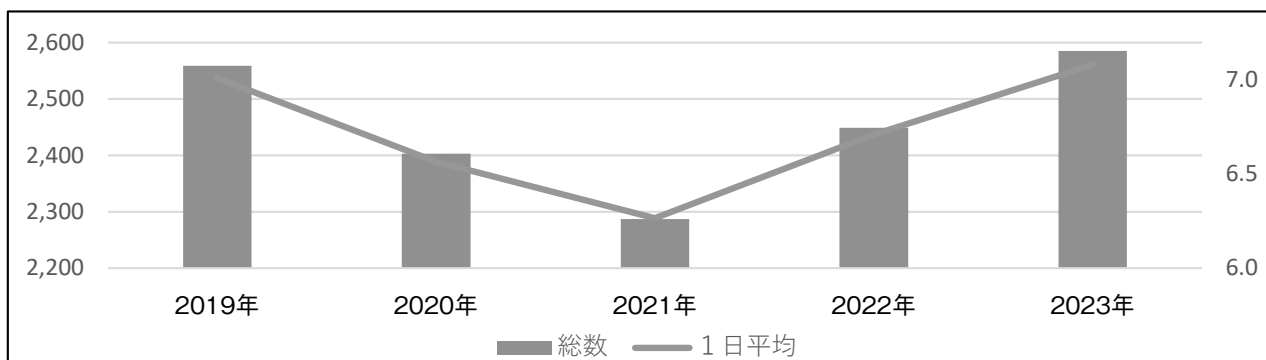
総数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内科	1,077	822	900	1,205	818
循環器内科	266	216	170	180	160
外科	401	342	239	201	230
整形外科	1,165	1,174	954	849	767
形成外科	89	11	11	5	1
脳神経外科	462	408	388	393	360
皮膚科	1	0	0	0	0
泌尿器科	4	10	11	40	51
眼科	0	0	0	2	2
耳鼻咽喉科	0	2	5	1	0
リハ科	0	0	0	0	0
放射線科	1	0	0	0	0
麻酔科	598	460	375	337	296
医療相談科	0	0	0	0	0
合計	4,064	3,445	3,053	3,213	2,685

1日平均	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内科	3.0	2.2	2.5	3.3	2.2
循環器内科	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4
外科	1.1	0.9	0.7	0.6	0.6
整形外科	3.2	3.2	2.6	2.3	2.1
形成外科	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
脳神経外科	1.3	1.1	1.1	1.1	1.0
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
眼科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	1.6	1.3	1.0	0.9	0.8
医療相談科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	11.1	9.4	8.4	8.8	7.4

■救急車受入件数（総数と1日平均）

（単位：件）

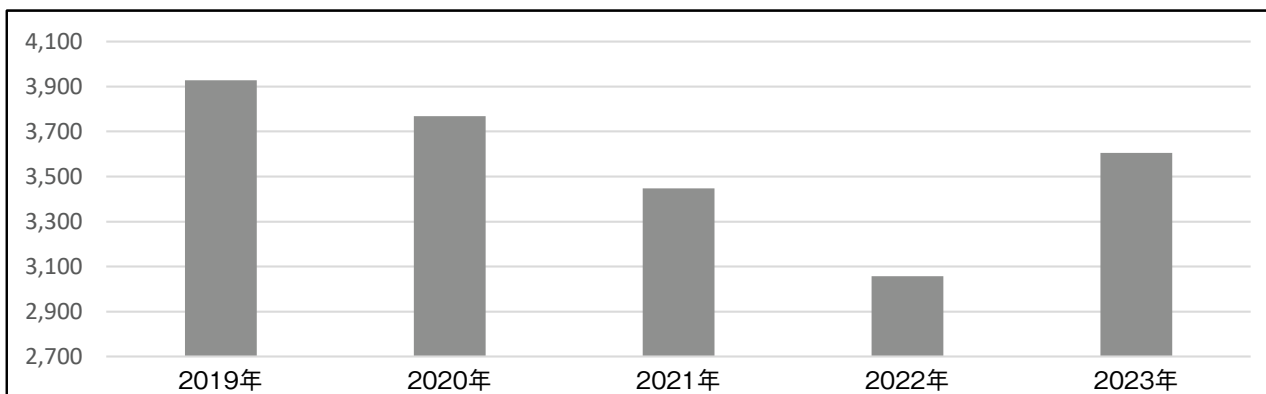
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総数	2,559	2,403	2,287	2,449	2,585
1日平均	7.0	6.6	6.3	6.7	7.1



■手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

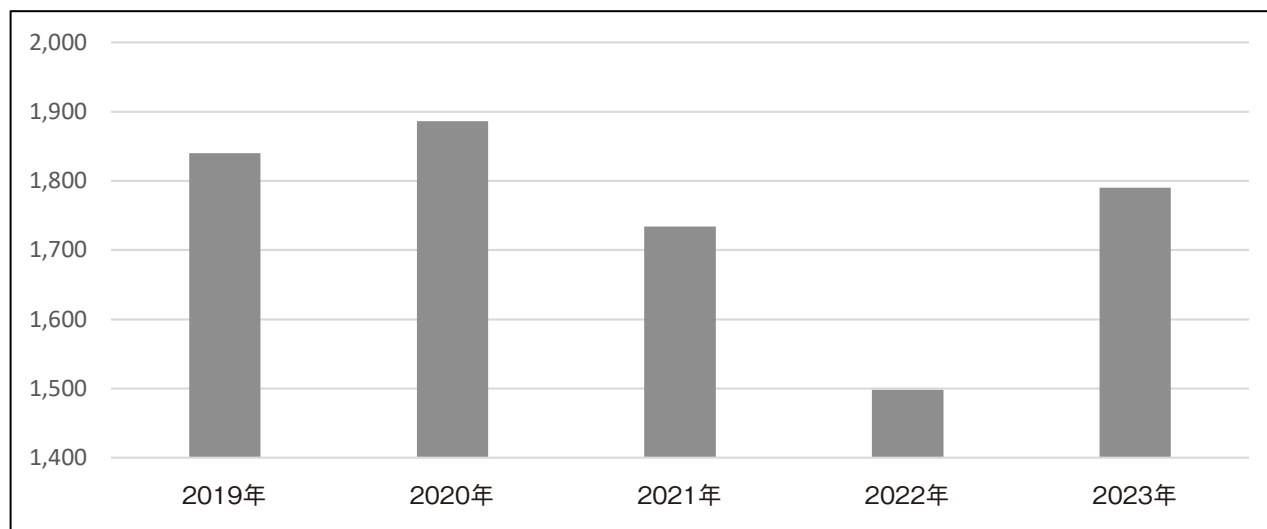
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内科	0	0	0	0	0
循環器内科	0	0	0	0	0
外科	465	395	406	368	460
整形外科	2,908	2,915	2,618	2,280	2,648
形成外科	327	227	198	180	212
脳神経外科	162	218	208	165	144
皮膚科	62	11	0	0	0
泌尿器科	3	2	18	63	141
眼科	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0
リハ科	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0
合計	3,927	3,768	3,448	3,056	3,605



## ■全身麻酔件数の推移

(単位：件)

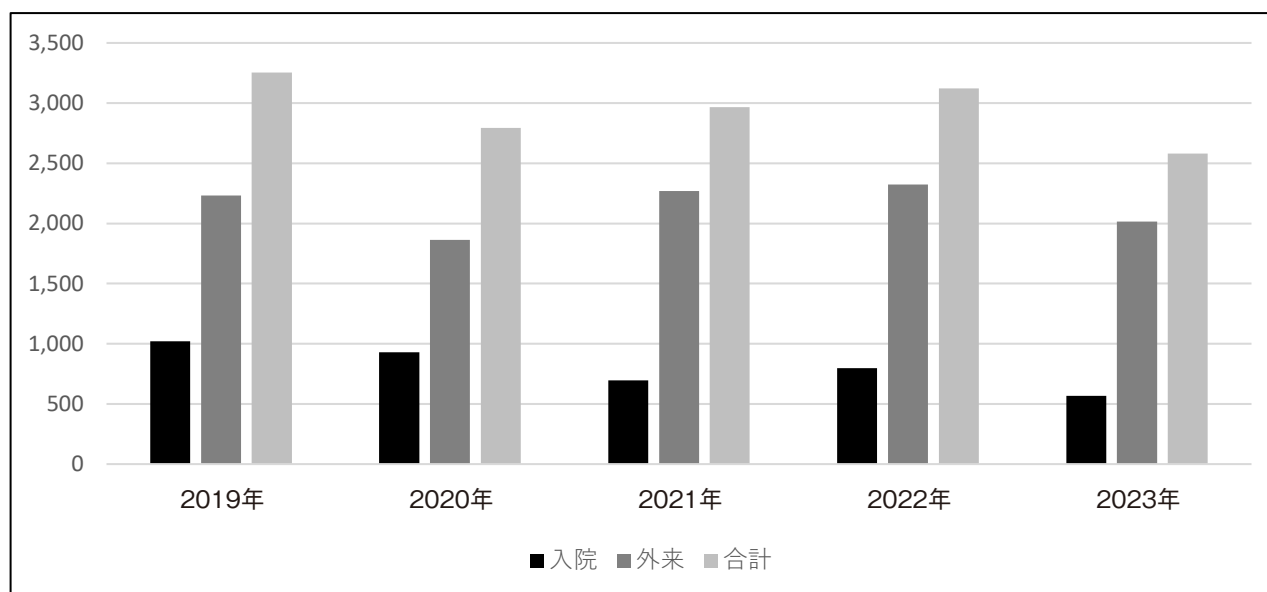
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全身麻酔件数	1,840	1,886	1,734	1,498	1,790



## ■化学療法件数の推移（入院・外来）

(単位：件)

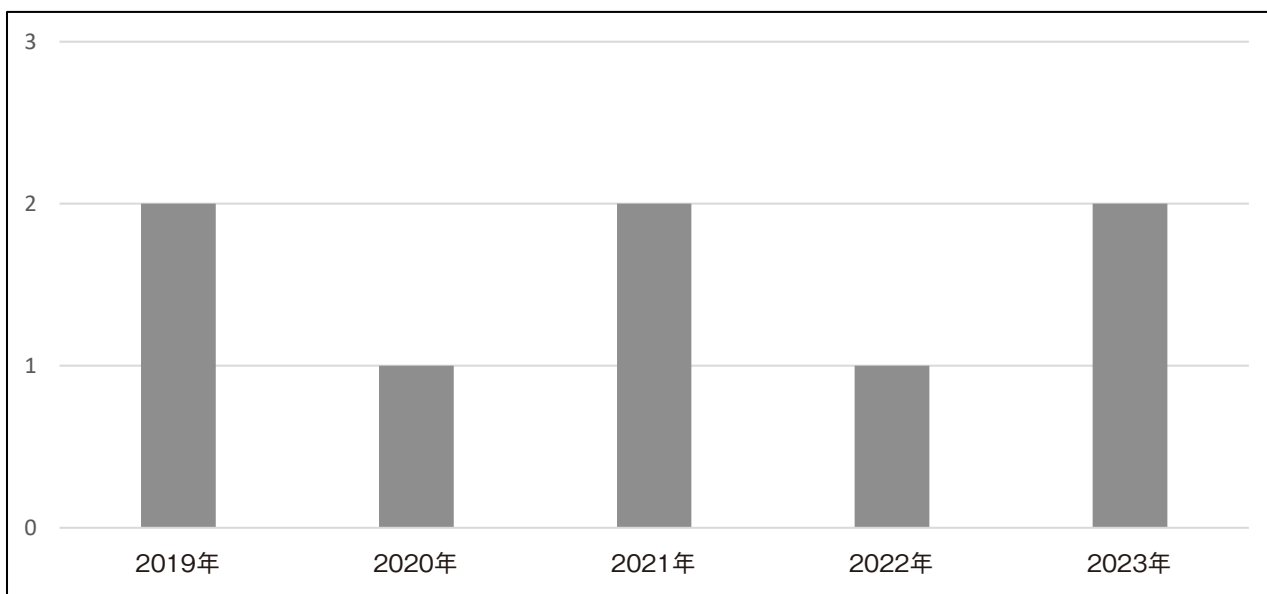
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院	1,022	930	697	796	566
外来	2,231	1,863	2,268	2,325	2,014
合計	3,253	2,793	2,965	3,121	2,580



## ■解剖件数の推移

(単位：件)

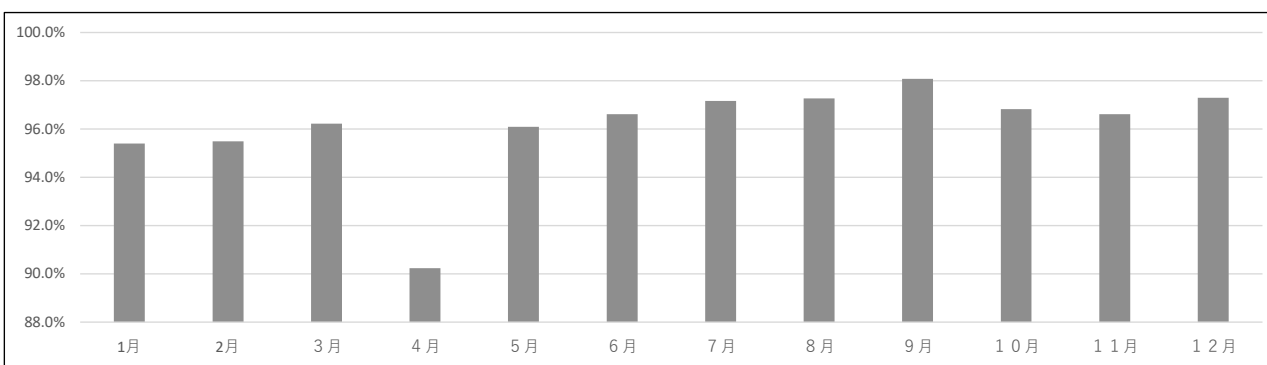
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
解剖件数	2	1	2	1	2



## ■後発医薬品指数 (2023年)

(単位：%)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
後発医薬品指数	95.4%	95.5%	96.2%	90.2%	96.1%	96.6%	97.2%	97.3%	98.1%	96.8%	96.6%	97.3%	96.1%



## DPC14 桁 診断部分類上位頻度表 (全科共通)

対象：2023年1月1日～12月31日退院患者  
(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工関節置換術等	286
2	060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術等	219
3	07040xx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む) 人工関節置換術等	125
4	070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術等 処置2なし	123
5	180030xxxxadv	その他の感染症(真菌を除く)+高額薬剤使用等によりDPC対象外	111
6	160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	93
7	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア 15歳以上 鼠径ヘルニア手術等	79
8	010060xxCCPM04	脳梗塞(04) 手術なし 処置1なし ラジカット(4) 副傷病なし/水頭症等(1) 他	72
8	160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む) 手術なし	72
10	070343xx97x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎 その他手術あり 処置2なし	69
10	070350xx02xxxx	椎間板変性、ヘルニア 椎間板摘出術 後方摘出術	69
12	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	65
13	070160xxxxlos0	上肢末梢神経麻痺+DPC対象となる病棟に入院していない	64
14	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 内視鏡的胆道ステント留置術等 処置2なし 副傷病なし	63
15	160690xx01xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む) 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術等	60
16	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む) 人工関節置換術等	57
16	160760xxxxlos0	前腕の骨折+DPC対象となる病棟に入院していない	57
18	110080xxxxadv	前立腺の悪性腫瘍+高額薬剤使用等によりDPC対象外	54
19	070341xx020xxx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 頸部 椎弓切除術、椎弓形成術等 処置1なし	52
20	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 処置2なし	45

## DPC6 桁 診断部分類上位頻度表 (全科共通)

対象：2023年1月1日～12月31日退院患者  
(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

## 内科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	60100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	225
2	180030	その他の感染症(真菌を除く)	110
3	40040	肺の悪性腫瘍	106
4	40080	肺炎等	70
5	60340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	69
6	40081	誤嚥性肺炎	63
7	60020	胃の悪性腫瘍	36
7	60300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む)	36
9	110310	腎臓又は尿路の感染症	34
10	60050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	31

## 循環器内科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	50050	狭心症、慢性虚血性心疾患	53
2	50070	頻脈性不整脈	41
3	50210	徐脈性不整脈	34
4	50030	急性心筋梗塞(統発性合併症を含む)、再発性心筋梗塞	25
5	50140	高血圧性疾患	16
6	50060	心筋症(拡張型心筋症を含む)	11
7	40080	肺炎等	9
7	50130	心不全	9
7	50170	閉塞性動脈疾患	9
10	50080	弁膜症(連弁膜症を含む)	7

## 外科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	90010	乳房の悪性腫瘍	129
2	60035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	111
3	60160	鼠径ヘルニア	80
4	60040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	58
5	60335	胆嚢炎等	37
6	60020	胃の悪性腫瘍	29
7	60150	虫垂炎	18
8	60210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	17
9	60370	腹膜炎、腹腔内膿瘍(女性器臓器を除く)	16
9	60330	胆嚢疾患(胆嚢結石など)	16

## 整形外科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	70343	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	325
2	160800	股関節・大腿近位の骨折	303
3	70350	椎間板変性、ヘルニア	169
4	160760	前腕の骨折	168
5	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	160
6	07040x	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む)	128
7	70160	上肢末梢神経麻痺	97
8	70341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 頸部	95
9	160850	足関節・足部の骨折・脱臼	94
10	70230	膝関節症(変形性を含む)	67

## 形成外科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	80007	皮膚の良性新生物	15
2	70010	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く)	8
3	70380	ガングリオン	6
4	80250	褥瘡潰瘍	4
4	70570	瘢痕拘縮	4
6	160660	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	3
6	160590	四肢神経損傷	3
6	80220	エクリン汗腺の障害、アポクリン汗腺の障害	3
9	50170	閉塞性動脈疾患	2
9	161000	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	2
9	80010	膿皮症	2
9	140210	先天性耳瘻孔、副耳	2

## 脳神経外科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	10060	脳梗塞	164
2	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	85
3	10040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	63
4	10230	てんかん	37
5	10070	脳血管障害	32
6	10020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	17
6	10030	未破裂脳動脈瘤	17
6	10050	非外傷性硬膜下血腫	17
9	10010	脳腫瘍	15
10	10200	水頭症	13
10	50170	閉塞性動脈疾患	13

## 泌尿器科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	110080	前立腺の悪性腫瘍	85
2	110200	前立腺肥大症等	43
3	110310	腎臓又は尿路の感染症	35
4	110070	膀胱腫瘍	34
5	11012x	上部尿路疾患	31
6	11013x	下部尿路疾患	13
7	11022x	男性生殖器疾患	11
8	11001x	腎腫瘍	8
9	110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	5
10	120090	生殖器脱出症	3

## 眼科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	20320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	2
2	20370	視神経の疾患	1
2	02006x	眼の良性腫瘍	1

## 耳鼻咽喉科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	30400	前庭機能障害	1

## 麻酔科

順位	診断部分類番号	診断部分類名称	症例数 (件)
1	161070	薬物中毒(その他の中毒)	6
1	120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	6
3	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	4
4	30400	前庭機能障害	3
5	70090	筋炎(感染性を含む)	2
5	50210	徐脈性不整脈	2
7	110290	急性腎不全	1
7	10310	脳の障害(その他)	1
7	100391	低カリウム血症	1
7	110310	腎臓又は尿路の感染症	1
7	160450	肺・胸部気管・気管支損傷	1
7	160400	胸郭・横隔膜損傷	1
7	160870	頸椎頸髄損傷	1
7	10111	遺伝性ニューロパチー	1
7	10120	特発性(単)ニューロパチー	1
7	50030	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む)、再発性心筋梗塞	1
7	70350	椎間板変性、ヘルニア	1
7	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	1
7	160835	下腿足関節周辺の骨折	1
7	160580	腹壁損傷	1

# III 診療科の特色

内科・呼吸器科・感染症内科	29	放射線科	40
消化器内科	30	病理診断科	41
循環器内科	31	健康診断部・アスベスト疾患ブロックセンター	42
整形外科	32	薬剤部	43
外科	33	中央検査部	45
形成外科	34	中央放射線部	47
脳外科	35	中央リハビリテーション部	49
泌尿器科	36	看護部	51
皮膚科	37	臨床工学部	53
耳鼻咽喉科	38	栄養管理室	54
麻酔科・救急集中治療科	39		





## ■方針

内科では呼吸器内科と感染症内科と連携し一般内科医として初期診療を行ない、患者さんに信頼される医療、正確な診断を心がけ専門性の高い疾患については専門医への紹介を行っている。

呼吸器内科では呼吸器疾患全般の診療を行っている。肺がんの診断に対しては仮想内視鏡検査を用い気管支鏡検査で肺生検を行っている。積極的にがん遺伝子の検索を行い、最新のガイドラインに沿って殺細胞性薬剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬を使い分けている。手術適応と診断した患者さんや放射線治療が必要な患者さんには近隣医療機関へのご紹介も行う。高齢化に伴う誤嚥性肺炎に対しては耳鼻科と連携し内視鏡による嚥下機能評価を行い、多職種による嚥下リハビリを行っている。

感染症内科ではショックバイタルを示す救急の敗血症症例やリケッチア感染症（日本紅斑熱・SFTS など）なども診療をおこなっている。また、院内では抗菌薬適正使用チーム・感染対策チームでの活動を通じ院内感染症のサーベイランス、標準予防策、感染経路別予防策の徹底、抗菌薬適正使用への介入を行っている。

## ■診療実績

入院主要疾患	症例数	死亡数
肺炎・誤嚥性肺炎	96	13
COVID-19	79	3
肺がん	64	17
悪性胸膜中皮腫	6	3
敗血症・尿路感染症	44	1
びまん性肺疾患	26	3

## ■主要検査・処置

主要検査	処置数
気管支鏡検査	53
胸腔ドレナージ	27
胸腔穿刺	20
化学療法件数（点滴）	90
化学療法件数（投薬）	119

## ■スタッフ紹介

## 池田 徹

日本内科学会認定医・総合内科専門医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医  
インфекションコントロール制度協議会認定医  
日本医師会認定産業医  
労災保障指導医

## 吉田俊昭

日本内科学会認定医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
日本感染症学会専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医  
日本化学療法学会抗菌化学療法適正使用指導医  
インфекションコントロール制度協議会認定医  
厚生労働者認定臨床研修指導医  
日本人間ドック学会認定医  
日本医師会認定産業医  
日本感染症学会評議員  
日本化学療法学会評議員  
日本職業・災害学会評議員、功労会員

## 山領 豪

日本内科学会認定医・総合内科専門医  
日本感染症学会専門医  
日本結核・非結核性抗酸菌学会認定医  
インфекションコントロール制度協議会認定医

## 本田 章子

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医  
日本呼吸器学会専門医  
日本感染症学会専門医・指導医  
がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本化学療法学会抗菌化学療法適正使用専門医・指導医  
インфекションコントロール制度協議会認定医

## 延末 謙一

日本内科学会認定医

## ■方針

当科では、肝疾患、消化管疾患（食道・胃・大腸）、胆・膵疾患などの消化器疾患全般の診療を担当しております。ルーチンの内視鏡検査（2023年度 上部消化管内視鏡 1612例 下部消化管内視鏡 761例）を行うほかに治療内視鏡の件数が年々増加している。

これまでの経緯としてC型肝炎に対する経口抗ウイルス薬治療については2014年以降、200例以上に治療導入し99%以上の著効率が得られており、著効後の肝細胞がんの発がんに対しての経過観察および治療も継続的に行っている。

また、最近では早期胃癌や早期大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)についても日常診療として施行しており、症例数は年々増加している。

また、消化管出血に対する緊急内視鏡や胆・膵疾患については内視鏡的止血術、内視鏡的胆道ドレナージ術など、院内および院外の救急処置としての治療内視鏡の必要性は高まる傾向にある。

しかし、進行がんをはじめとして当科だけでは患者さんの治療という意味では至らないことも当然のことに多くある。特に外科の先生方には常日頃より大変お世話になっている。今後とも他科の先生方や様々な医療スタッフの御助力をいただきつつ努めていく所存です。

どうかよろしくご厚意申し上げます。

## ■治療内視鏡およびIVR 主要5疾患主要疾患

疾患名	内視鏡手技など	症例数
胆膵疾患（総胆管結石、胆道がん、すい臓がん）	内視鏡的胆道ドレナージ術、十二指腸乳頭切開および総胆管結石除去術、胆道および膵管ステント挿入術など	159
早期食道がん・胃がん・大腸がん（腺腫含む）	内視鏡的食道・胃・大腸粘膜下層剥離術(ESD)	53
大腸ポリープ	内視鏡的大腸粘膜切除術	234
上部・下部消化管出血	内視鏡的止血術	85
原発性肝細胞癌	選択的肝動脈塞栓術、エコー下ラジオ波焼灼術など	20

## ■スタッフ紹介

### 後藤貴史

九州肝癌研究会世話人  
長崎炎症性腸疾患研究会世話人  
県北肝臓研究会世話人  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医  
日本肝臓学会専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本内視鏡学会専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医

### 吉村映美

日本内科学会認定内科医  
日本肝臓学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本内視鏡学会専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医

### ト部繁俊

長崎県北胃と腸の会世話人  
IBD 社中の会世話人  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本内視鏡学会専門医・指導医  
日本消化管学会胃腸科専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医

### 北川瑞希

専攻医

■方針

長崎県北地域や佐賀県西部地域の心血管疾患患者さんの診療を、他の主要な病院と連携しながら行なっている。疾患の特性で緊急を要する疾患も多く、患者さんをできるだけ常時お引き受けできるようにしている。冠動脈や末梢血管の形成術、ショック状態の患者さんへの大動脈バルーンポンプ（I A B P）や経皮的心肺補助装置（PCPS, ECMO）も施行可能である。また、徐脈性疾患に対するペースメーカー植え込み術も行なっている。

心臓血管外科が併設されていない施設としては十分な機能を有している。近年は高齢者の心不全患者さんが急増しており、ガイドラインに沿った薬物療法や心臓リハビリテーションのみならず、退院後の生活がスムーズに行えるように多職種が関わって治療やマネジメントを行なっている。

For Healthy Aging に取り組む当院の方針に沿った医療の提供を行なっている。

■治療、症例数 2023年

疾患名	症例数
冠動脈形成術	33
冠動脈造影検査	87
ペースメーカー植え込み術	25
ペースメーカー電池交換術	10
末梢血管治療	5
心不全	97

■スタッフ紹介

山佐稔彦

県北循環器連携懇話会世話人  
日本内科学会認定医  
総合内科専門医・指導医  
日本循環器学会専門医・指導医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医  
長崎大学医学部（医学科）  
臨床准教授  
長崎大学医学部医学科臨床教育マイスター

谷真太郎

日本内科学会総合内科専門医

吉田 智

日本内科学会総合内科専門医

## ■方針

整形外科においては近年専門化が進んでおり、当院でも専門医が診療、手術にあたっている。整形外科は14名の常勤医師が対応し、脊椎外科は馬場副院長、股関節外科は高橋部長、膝関節外科は鳥越部長、手の外科は田中部長を中心として、外来診療も専門化し患者さんを一貫してスムーズに診察、治療ができる体制をとっている。外傷に関しては、労働災害のみならず救急搬送症例には24時間のオンコール体制で対応し、常に専門的な診断と緊急手術を含めた治療が可能である。

骨粗鬆症に対しては骨密度測定装置(DEXA)での検査などを行い、テリパラチド(PTH製剤)、イベニティ投与を中心とした治療に積極的に取り組んでいる。今後は周囲病院との連携をさらに強化し、待ち時間の短縮や手術までの待機日数を減らすなど患者サービスの向上、改善を目指す。

## ■入院主要5疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
腰部脊柱管狭窄症	M4806	229	0
腰椎椎間板ヘルニア	M512	142	0
左大腿骨転子部骨折	S7210	79	0
左大腿骨頸部骨折	S7200	72	0
左橈骨遠位端骨折	S5250	65	0

## ■主要手術方法臨床統計ならびに治療成績

疾患名	Kコード	患者数	術死数
骨折観血的手術	K0461	194	1
人工関節置換術(股)	K0821	202	0
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	K1423	130	0
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方又は後側方固定)	K1422	124	1
人工骨頭挿入術(股)	K0811	112	0

## ■手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
2,648	1,726	458	0	464	381	2,767

## ■スタッフ紹介

### 馬場秀夫

長崎大学臨床教授  
長崎大学整形外科同門会 幹事  
日本脊椎インストゥルメンテーション学会 評議員  
西日本整形災害外科学会 評議員  
長崎脊椎研究会 世話人  
佐世保整形外科医会 世話人  
日本整形外科勤務医会 長崎県副会長

### 鳥越雄史

西日本骨折研究会 世話人

### 田中奈津美

### 今井智恵子

### 高橋良輔

### 吉田悠哉

### 荒木貴士

### 貞松毅大

ICLS アシスタントインストラクター

### 郷野開史

### 藤池 彰

### 井上孝之

### 神崎衣里

### 樋口尚浩

### 弦本直治

### 橋口元一

## 外科

責任者：前田茂人

## ■方針

当院の外科は、2023年4月から3名の新しいスタッフが加わり、佐世保および県北の地域医療に貢献することを目指している。私たちは高度な知識と技術を身につけ、他科と密接に連携しながら、患者に寄り添った治療を提供している。患者一人ひとりの人生を大切に、「その人らしく」歩むための医学的なサポートを提供している。がん患者には、生存期間の延長と生活の質の向上を目指した最適な治療を提供している。

具体的には、以下の点に注力している：

ガイドラインに基づいた標準治療の提供

患者が望む人生に寄り添う医療の提供

多職種とのチーム医療の推進：他科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、栄養士との緊密な連携を図り、総合的な医療サービスを提供している。

私たちは患者の安全と健康を最優先に考え、地域社会に貢献するために努力している。

## ■入院主要疾患

疾患名	症例数	備考	死亡退院数
甲状腺腫瘍	11例	5例：内視鏡補助下手術	0
乳癌	38例	3例：再建術	1
胃癌	23例	11例：腹腔鏡手術	
大腸癌	47例	30例：腹腔鏡手術	
胆嚢結石	64例	57例：腹腔鏡手術	0
鼠径ヘルニア	77例	58例：腹腔鏡手術	0

## ■入院手術疾患

疾患名	症例数	備考	死亡退院数
鼠径ヘルニア根治術	77例		0
胆嚢摘出術	64例		0
ポート留置術	42例	他科からの依頼もあります	0
結腸切除術	36例		0
乳房切除術	23例		0
乳房部分切除術	15例		0

## ■スタッフ紹介

## 前田茂人

日本外科学会（指導医、専門医、認定医）  
 日本乳癌学会（評議員、指導医、専門医、認定医）  
 日本内分泌外科学会（評議員、専門医）  
 日本癌治療認定医機構（認定医）  
 緩和ケアの基本教育のために都道府県指導医  
 厚生労働省認定臨床研修医指導医  
 ASCO active member

## 橋本敏章

日本外科学会（指導医、専門医、認定医）  
 日本消化器外科学会（消化器がん外科治療認定医、指導医、専門医、認定医）  
 日本消化器病学会専門医  
 日本乳癌学会認定医  
 日本癌治療認定医機構（認定医）  
 臨床研修指導医

## 岡本辰哉

日本外科学会（指導医、専門医）  
 日本消化器外科学会（消化器がん外科治療認定医、指導医、専門医）  
 緩和ケアの基本教育のために都道府県指導医  
 厚生労働省認定臨床研修医指導医

## 久保飛翔

専修医

## 岩田 亨

日本外科学会（専門医、認定医）  
 日本乳癌学会（指導医、専門医）  
 日本内分泌外科学会（専門医）

## ■方針

顔面外傷では脳外科や眼科の先生と、四肢の外傷では整形外科の先生がたと、褥瘡・難治性潰瘍、糖尿病性壊疽、閉塞性動脈硬化症などによる虚血性壊疽では内科・循環器科・麻酔科の先生や皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC）と、乳癌の同時再建手術では外科の先生と協力しながら、機能と整容の両面で納得のいく治療をこころがけている。

熱傷、皮膚・皮下・軟部腫瘍全般、ケロイド・肥厚性瘢痕・瘢痕拘縮、腋臭症、陥入爪は形成外科単独で治療しているが、巻き爪はフットケア指導士の資格を持つ形成外科外来看護師による爪ケア外来に依頼することもある。

当院には小児科、産婦人科、透析室がありませんので、それに関係する患者さんの治療はマンパワーや設備上の問題で対応できない場合もある。

また、保険外診療のいわゆる美容整形手術は行っていません。さらに、当院は救急医療を中心に行う性格上、終末期高齢者の褥瘡患者の「つけかえ目的入院」はお断りしている。あらかじめご了承ください。

## ■当科で扱っている疾患

顔面外傷；顔面の皮膚軟部組織損傷と顔面骨骨折

熱傷

皮膚・皮下・軟部腫瘍全般

四肢の外傷；皮膚軟部組織損傷、腱・動脈・神経損傷、手指の切断

悪性腫瘍切除後の再建

褥瘡・難治性潰瘍、糖尿病性壊疽、閉塞性動脈硬化症などによる虚血性壊疽

ケロイド・肥厚性瘢痕・瘢痕拘縮、陥入爪、腋臭症

## ■手術実績

2023年実数 計 345例

外傷	83
先天異常	4
腫瘍	195
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	6
難治性潰瘍	22
炎症・変性疾患	27
その他	8

## ■スタッフ紹介

### 今泉敏史

日本形成外科学会・日本専門医機構認定  
形成外科専門医

日本熱傷学会 熱傷専門医

日本創傷外科学会 専門医

日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医  
佐世保市医師会理事（感染症・損保・生保担当）

## 脳外科

責任者：北川直毅

## ■方針

当科は長崎県下で高度な脳卒中治療が可能な医療機関として『地域脳卒中センター』に認定されている。脳卒中治療は一刻を争うため、より効率的な患者搬送を目的とし、地域医療機関および救急隊との間で『脳神経外科ダイレクトコール(脳卒中ホットライン)』を開設している。

現在、医師4名(専門医4名)で看護師やリハビリ技師などと協力し地域完結型の包括的な急性期脳卒中治療を行っている。

治療法については開頭手術および血管内治療それぞれの専門医同士が協議し患者さんに最適な治療法を選択しどちらも質の高い医療を提供する。もちろん脳卒中に限らず、脳腫瘍、機能的疾患(三叉神経痛、顔面けいれん)、重症頭部外傷など脳神経外科疾患全般の治療が可能である。

## ■入院主要5疾患

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
心原性脳塞栓症	1634	55	5
慢性硬膜下血腫	1620	47	0
ラクナ梗塞	1638	20	0
症候性てんかん	G408	16	1
アテローム血栓性脳梗塞	1633	14	0

## ■主要手術

手術名	Kコード	件数	術死数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	K164-2	46	0
経皮的脳血栓回収術	K178-4	17	0
頭蓋内腫瘍摘出術(その他)	K1692	14	0
動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	K6092	11	0
脳血管内手術	K1781	11	0

## ■手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
193	100	93	107	86

## ■スタッフ紹介

## 北川直毅

日本脳神経血管内治療学会九州地方会世話人  
 労災診療指導委員会委員  
 長崎県移植情報担当者協議会委員  
 長崎県ドクターヘリ安全管理部会・症例検討会委員

## 廣瀬 誠

## 前田 肇

## 高平良太郎

## ■方針

「健康寿命を延ばす医療で社会に貢献」という理念のもと、医療の提供を通じて、健康で活気に満ちた地域作りに貢献している。

特に当科では、前立腺肥大症、過活動膀胱尿をはじめとした排尿障害の患者さんへの診断・治療に注力しており、患者さんの生活の満足度を上げることを目標としている。

また、がん患者さんに対しては、腹腔鏡手術や化学療法といった治療を行なっており、患者さんの希望に寄り添った治療選択を行えるよう、多職種で連携していきます。

## ■入院主要疾患

疾患名	ICD-10コード	件数	死亡退院数
前立腺癌	C61	85	0
前立腺肥大症	N40	43	0
尿路感染症	N39	35	0
腎細胞癌	C64	8	0
腎盂尿管癌	C65	5	0
骨盤内臓器脱	N819	3	0

## ■主要手術

手術名	Kコード	件数	死亡退院数
前立腺生検法 (MRI 及び超音波検査融合画像)	D413	57	0
経尿道的前立腺手術 (電解質溶液利用のもの)	K8411	28	0
膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術・電解質溶液利用のもの)	K803	26	0
経尿道的前立腺吊上術	K841-6	16	0
腹腔鏡下仙骨脛固定術	K865-2	3	0

## ■手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎・硬膜外	静脈麻酔	局所麻酔
155	23	83	2	6

緊急手術	待機手術
10	145

## ■スタッフ紹介

### 1. 酒井英樹

公益財団法人 前立腺研究財団理事  
 特定非営利活動法人 前立腺がん啓発推進実行委員会理事  
 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会監事  
 日本泌尿器腫瘍学会代議員  
 日本老年泌尿器科学会評議員  
 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会世話人  
 男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン作成委員会委員 (日本泌尿器科学会)  
 前立腺癌診療ガイドライン作成委員会委員 (日本泌尿器科学会・日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会)  
 前立腺がん検診ガイドライン改訂委員会委員 (日本泌尿器科学会)  
 副腎腫瘍取扱い規約第4版作成委員会委員 (日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会・日本内分泌学会・日本内分泌外科学会)  
 日本泌尿器科学会指導医  
 日本内分泌外科学会指導医  
 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会  
 泌尿器腹腔鏡技術認定医

### 2. 大坪亜紗斗

日本泌尿器科学会 専門医  
 医学博士

### 3. 左川 遼

## ■方針

火・水・金曜日の週3回、午前に外来診療を行っている。

非常勤での診療のため、入院や手術は基本的には行っておりませんが、必要に応じて他科と連携しながら治療を行っている。

皮膚に気になる症状がありましたら、是非一度ご相談ください。

## ■診療実績（疾患）

診療内容は一般皮膚科で、皮脂欠乏性湿疹（乾燥）、疣贅（イボ）、白癬（水虫）、潰瘍・褥瘡などを診療している。

正確な診断のために、皮膚生検も可能です。

病変のある皮膚組織の一部を採取し、採取した組織で病理学的検査を行っている。

年間皮膚生検数：  
2022年度16件、2021年度21件

また、全身照射型のナローバンドUVBを備えており、乾癬・アトピー性皮膚炎等の光線療法も可能です。

当院かかりつけの場合は、主治医と相談し、外来での治療が困難な場合は、入院治療も行っている。類天疱瘡、薬疹などでの入院治療を行っている。

## ■スタッフ紹介

梶田章恵

日本皮膚科学会所属

根井悠里江

日本皮膚科学会、長崎大学皮膚科学教室所属

# 耳鼻咽喉科

## ■理念

当科は、医学的な根拠に基づいた診断と治療を行い、患者さんの安心感・信頼感ならびに満足感の得られる医療を提供している。

## ■基本方針

医学的な根拠に基づいた診断と治療を行います。

病状について患者さんにわかりやすく説明し、安全で納得できる治療を行っている。

大学病院はじめ、高次医療機関と積極的に連携をしている。

## ■概要

耳・鼻・のど・頸部の様々な疾患を対象に、内科的治療（内服薬・外用薬の投与など）はもちろんのこと、外科的治療（手術）まで、幅広く対応する外科系に属する診療科です。当院には現在常勤医がいないため、長崎大学病院耳鼻咽喉科頭頸部外科から医師を派遣して外来診療のみを行っている。したがって、入院治療や手術は行っておりませんが、風邪（上気道炎）や中耳炎、難聴、花粉症、副鼻腔炎、めまい、扁桃炎といった一般的な耳鼻咽喉科の疾患から、音声障害、嚥下障害など頭頸部の機能障害、さらには頭頸部の悪性腫瘍（癌や肉腫）など、専門的な診断や治療を必要とする疾患まで、幅広く取り扱っている。このような専門的な診断や手術を含めた高度な治療が必要な患者様には、大学病院や高次医療機関（佐世保総合医療センターなど）と緊密に連携をとり、患者様が適切な医療を受けられるように引き続き努めて参ります。

## ■スタッフ紹介

### 長崎大学病院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医局員が火曜日・木曜日の外来を担当する。

■特色

近年は高齢患者の増加に伴い、全身合併症を伴った症例が多く高度な全身管理ならびに、手術の高度化に伴い高度な麻酔管理が求められている。我々麻酔科にはプロフェッショナルとして術前、術中、術後まで俯瞰した麻酔管理が求められているわけです。また全身麻酔に超音波ガイド下の神経ブロックなどの様々な方法を併用することによって、術後の痛みをかなり軽減することが可能になった。

ペインクリニックはNTT 東日本関東病院ペインクリニック科に国内留学経験のあるペインクリニック専門医が神経ブロックを主体とした様々な治療を行っている。

学生の教育にも力を入れておまして、長崎大学麻酔科の臨床実習の1日/週を当科で担当させていただいている。さらに質の高い臨床研究を引き続き継続し、国内外への学会発表・和文英文での論文掲載へ努力していくことが必要であると考えている。質の高いレベルでバランスのとれた臨床、臨床研究、教育を継続し、バランスのとれた麻酔科専門医を育てること、病院の運営に貢献することを目標として、日々精進している。

■麻酔関連

総麻酔数 2405  
全身麻酔 1881  
脊髄クモ膜下麻酔 509  
硬膜外麻酔 11  
その他 4

■ペイン外来

総神経ブロック数 1568 例  
超音波ガイド下神経ブロック 1123  
レントゲン透視下ブロック 64  
ランドマーク下神経ブロック 381

■ICU 関連

総 ICU 入室患者 651 名  
人工呼吸 89  
持続的血液ろ過透析 7  
IABP 9  
PMX 4  
PCPS 1

■スタッフ紹介

寺尾嘉彰

日本麻酔科学会代議員  
日本臨床麻酔学会評議員  
日本集中治療医学会九州支部支部連絡協議会委員評議員  
長崎麻酔研究会世話人  
長崎県災害検討委員会委員  
長崎県北メディカルコントロール協議会委員  
長崎県医療安全検討委員会委員  
日本麻酔科学会指導医  
日本麻酔科学会専門医機構専門医  
日本集中治療医学会専門医  
日本救急医学会専門医機構専門医  
呼吸療法専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医  
長崎大学医学部医学科麻酔集中治療医学 臨床教授  
麻酔科標榜医  
日本 DMAT 隊員

大路牧人

日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会協力者  
日本麻酔科学会指導医専門医  
日本ペインクリニック学会専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医  
麻酔科標榜医

大路奈津子

日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会協力者  
日本麻酔科学会指導医  
日本麻酔科学会専門医機構専門医  
日本ペインクリニック学会専門医  
日本区域麻酔学会指導医  
麻酔科標榜医

卜部繁彦

日本麻酔科学会指導医  
日本麻酔科学会専門医機構専門医  
厚生労働省認定臨床研修指導医  
麻酔科標榜医

岩永浩貴

麻酔科標榜医

副島悠生

**■方針**

当放射線科では、疾患の画像診断、およびIVR（画像診断法を用いて行う生検や治療）を施行している。画像診断は単純写真、マンモグラフィ、消化管造影、CT、MRI、核医学により、総合的に行っている。

IVRは、血管分野（血管造影にて行うもの）と非血管分野に大別される。血管分野では、悪性肝腫瘍に対して肝動脈に抗癌剤を注入する治療（肝動注化学療法）、それと肝動脈塞栓術を併用する治療（肝動脈化学塞栓療法）を最も多く行っており、これらは主に肝癌が対象となる。外傷性出血や消化管出血、喀血に対する動脈塞栓術、肝硬変や門脈圧亢進に伴う静脈瘤に対するバルーン下逆行性経静脈的塞栓術なども行っている。非血管分野では、肺や骨などの腫瘍、脊椎炎などに対するCTガイド下生検、CTガイド下経皮的膿腫排泄などを行っている。

当院の画像診断は他院にも活用していただき、県北地区の地域医療に大きく貢献していく所存である。単純写真、断層写真以外の検査は基本的に予約制だが、急患には柔軟に対応できる。血管造影も24時間対応できる体制となっている。

**■スタッフ紹介****川原康弘**

日本専門医機構放射線専門医  
日本医学放射線学会放射線診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導医

■方針

患者様に最良の医療を提供できるよう、正確で迅速な病理診断を行うよう努める。積極的に院内のカンファレンスに参加し他科との連携を充実させる。ゲノム検査に耐えうる質の保たれた病理組織標本作成や検体の保管を行う。最新知識の維持のため、他施設や大学との交流を引き続き継続していく。

当院ではアスベスト疾患ブロックセンターを有しており、連携してアスベストによる疾病の認定に貢献する。また、各診療科の学会発表や論文投稿など学術的要望にも積極的に応じていく。

■スタッフ紹介

力武美保子

日本病理学会 病理専門医  
 日本病理学会 分子病理専門医  
 日本臨床細胞学会 細胞診専門医  
 日本臨床検査医学会 臨床検査管理医  
 死体解剖資格  
 日本病理学会評議員  
 九州・沖縄スライドカンファレンス世話人  
 日本病理学会 病理専門医 研修指導医  
 厚生労働省認定 臨床研修指導医  
 佐賀大学医学部医学科  
 非常勤講師（病理学）

■ 2023年実績

組織診断	1452
術中迅速組織診断 / 細胞診断	36/3
細胞診	745
病理解剖	3
臨床病理検討会（CPC） 急速進行性間質性肺炎の1例 等	2

■特色

当科は常勤医師1名と臨床検査技師3名にて日々の業務に当たっている。また佐賀大学医学部（病因病態科学講座 探索病理学分野）より非常勤医師を派遣していただき、診断のダブルチェックや解剖等の対応など、業務が滞ることがないように支援体制がある。

難解な症例については積極的に臨床主治医とコミュニケーションを図り、大学や日本病理学会、日本病理学会九州・沖縄支部にコンサルテーションも行なっている。

また学会発表や医学雑誌投稿にあたり、症例の病理写真撮影や病理所見に対するコメントの相談も積極的に対応している。

臨床病理検討会も開催しており、毎回有意義なディスカッションが行われている。

今後もすべての患者様のために病理診断の質、検体の質が担保されるよう業務を行なっていく。

■方針

健診を通してがんや生活習慣病の早期発見などに務め、受診者の健康不安の軽減をはかるためにわかりやすい説明・指導を行っている。

アスベストばく露歴のある勤労者の健康相談や健診を通して健康不安の軽減をはかるとともに、早期診断・治療に努めている。

■特徴

○健診部

当院の健診（脳ドック、子宮がん健診を除く）は、午前中に行いますので、午後からは勤務などの日常生活が可能である。

また、早期治療・精密検査や食事やライフスタイルの改善による生活習慣病の予防などの保健指導も行っている。

健診として協会けんぽ生活習慣予防検診、個人ドック、企業健診、がん健診（前立腺がん、乳がん、子宮がん）に加えて、労災病院として労働安全衛生規則による定期健診、企業の特殊健診（有機溶剤、特定化学物質、じん肺・石綿、溶接ヒューム、電離放射線など）なども行っている。

さらに、未発症の脳血管疾患（未破裂脳動脈瘤、無症候性脳梗塞など）を発見し、その発症や進行を防止する目的で脳外科専門医による脳ドックも行っている。

○アスベスト疾患ブロックセンター

アスベスト（石綿）ばく露歴のある勤労者やその家族等を対象とした「石綿健康管理手帳」健診や労災申請手続きなどに関する健康相談を行っている。

さらに、アスベスト関連疾患の診断・治療の支援も行っている。また、産業医等を対象としたアスベスト関連疾患の診断法や労災手続きなどに関する講演活動やアスベストばく露の医学的診断に必要な肺組織の石綿小体測定も行っている。

■診療実績

○健診部

協会けんぽ生活習慣予防検診	1,071 件
企業健診	306 件
人間ドック	72 件
脳ドック	113 件
企業特殊健診	240 件
労災特別加入健診	147 件
労災二次健診	9 件
特定健診	22 件
佐世保市委託事業（乳がん・前立腺がん健診）	96 件
原爆被爆者健診	31 件
被爆二世健診	9 件

○アスベスト疾患ブロックセンター

健康相談	30 件
石綿健康管理手帳健診	474 件
石綿小体測定	3 件
講演	3 件

■スタッフ紹介

吉田俊昭

日本内科学会認定医  
 日本呼吸器学会専門医・指導医  
 日本感染症学会専門医・指導医  
 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医  
 日本人間ドック学会認定医  
 日本医師会認定産業医  
 日本感染症学会 評議員  
 日本化学療法学会 評議員  
 日本職業・災害医学会 評議員・功労会員  
 厚生労働省 特定石綿被害建設業務労働者等  
 認定審査会専門委員会委員  
 長崎労働局 地方労災委員  
 労働者健康安全機構 石綿確定診断委員会委員  
 長崎産業保健総合支援センター 産業保健相談員  
 佐世保市医師会 保健センター住民保健部委員  
 長崎県立佐世保工業高等学校 学校医・健康管理医

■方針

薬剤部理念

『病院の理念、方針に沿い医薬品の適正使用を支援いたします。』

薬剤部の基本方針

- ・最適な医薬品情報の提供に努めます。
- ・医薬品の適正使用と安全管理に努めます。
- ・薬の専門職として自覚を持ち知識や技術の向上に努めます。

日々進歩し多様化する医療の中で、専門職として医薬品の適正な使用、安全でより効果的な薬物療法の実現を目指している。

また、チーム医療の一員として、薬学的視点から医療の質と患者さんのQOLの向上に貢献できるよう、研鑽に努めている。

2024年の重点項目

1. 薬剤管理指導業務の強化

薬剤管理指導業務は、薬物の有効性と安全性の向上や経営面においても大変重要な業務である。薬剤管理指導算定件数が2023年は、2022年より年間で1500件程度増加しました。さらに伸ばしていくには、薬剤師の増員が課題である。

2. 専門・認定薬剤師の取得

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果を上げられるよう、またモチベーションアップのためにも、毎年各自にて実行計画書を作成して目標を達成できるように、日頃から自己研鑽に励むように部内の教育・研修体制を整備し支援できる環境作りに努めていきたい。

3. 医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施していくため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について医薬品安全管理責任者を中心に全てのメディカル・スタッフが手順を励行して安全対策を推進していく。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも連携して、必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努めていきたい。

4. 後発医薬品及びバイオシミラーへの切替促進

後発医薬品及びバイオシミラーへの切替は積極的に行っており、後発医薬品使用体制加算1の施設基準を2023年も達成しており、また

後発医薬品及びバイオシミラーへの切替を行うことで、薬品購入額削減ができています。今年も積極的に切替を行っていき、経営面でも貢献を行っていききたい。

5. 人員確保

2023年より薬学生奨学金貸与制度を認めていただき、本年は薬学生1名の確保ができ、今後に明るい兆しが見えてきたので、更なる人員の確保に繋げていけるようにしていきたい。

6. 働きがいのある職場作り

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し、相談し合える人間関係の構築に努めていく。

■2023年の評価

2023年は、薬剤師の新たな入職者がなく、薬剤師14名、薬剤助手1名で業務を行った。増員はなかったが、薬剤師それぞれの努力、業務の改善や効率化を行うことができました。経営面では、薬剤管理指導算定件数が2023年は、2022年より年間で1500件程度増加することができました。後発医薬品使用体制加算1の施設基準の後発医薬品割合90%以上かつカットオフ値50%以上を毎月達成できました。教育・研修・研究面においては、薬学部生4名を11週間にわたる実務実習を完遂することができました。また、専門・認定薬剤師については2名が更新することができ、1名がNST実地修練研修を修了することができました。各薬剤師が自己研鑽に励むとともに院内・院外の研修会の講師や学会発表行い、積極的に取り組むことができました。

■スタッフ紹介

薬剤師 14名  
助手 1名

■認定・専門薬剤師等

日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師  
：松永智子  
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師  
：松永智子  
日本糖尿病療養指導士  
：村木龍三郎

日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師  
：要 訓子  
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師  
：要 訓子  
災害対策支援チーム（日本 DMAT 隊員）  
：要 訓子  
日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師  
：廣瀬知子  
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士  
：廣瀬知子  
日本循環器学会 心不全療養指導士  
：村木龍三郎  
日本医療情報学会 医療情報技師  
：馬場親紀  
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師  
：馬場親紀、松永智子、島美保子  
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師  
：廣瀬知子  
日本病院薬学認定薬剤師  
：松永智子、要 訓子、安田暢子、三村恵子  
日本薬剤師研修センター認定薬剤師  
：馬場親紀、島美保子、廣瀬知子、村木龍三郎

#### ■薬学部実務実習受け入れ実績（2023年）

- ・第二期（5月22日～8月6日）2名
- ・第三期（8月21日～11月5日）2名

#### ■特色

薬剤部では、薬剤管理指導業務を積極的に展開し、全病棟に担当薬剤師を配置してチーム医療にも積極的に関わっている。医師、看護師、他のメディカルスタッフとも密に連携して薬の専門職として職能を十分発揮している。薬剤部内には、感染制御認定、外来がん治療認定、糖尿病療養指導士、NST 専門療法士、心不全療養指導士など各種認定、専門資格を有した薬剤師がそれぞれの専門性を生かして活躍している。また、学会発表・講演会などに積極的に取り組んで、日々自己研鑽に励んでいる。

## ■特色

中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門である。

臨床検査科部長の野中博章先生、病理診断科部長である力武美保子先生の指導下、23名の臨床検査技師が在籍し、各種検査及び外来採血を担っている。院内では検査業務の他にICT(感染制御チーム)やNST(栄養サポートチーム)、排尿検査や心臓カテーテル検査などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会、技師会や地域活動に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、在籍技師は各種学会の認定資格も多数取得している。

病理検査部門は、日本病理学会より日本病理学会研修登録施設として認定を受けており、日々精度の高い病理診断を報告することに努めている。

また、専門的な研修を受けた技師が、アスベスト(石綿)による労災および救済法の認定の一つであるアスベスト小体計測を実施している。

検体検査部門は、24時間迅速で信頼性の高い検査結果を報告する為に機器の精度管理や技師が実施可能な範囲の保守も行っている。中央検査部長を始め、日本臨床衛生検査技師会精度管理責任者講習を修了した技師が3名在籍しており、令和4年度からは日本臨床衛生検査技師会の「品質保証施設認証」も受けている。

細菌検査部門は、最新の知識・技術の研鑽を行い臨床医への適切な結果報告に努めており、迅速に検査結果を出すために休日(土日)も平日から継続した菌の培養等の作業を行っている。また、遺伝子検査装置を用いて迅速な結果報告による抗菌薬の適正使用にも貢献しており、感染防止対策のための耐性菌伝播モニタリングも実施している。

生理検査部門は、5名の日本超音波医学会認定超音波検査士を中心に、心臓、頸動脈、腹部、下肢血管、甲状腺、腎動脈などの超音波検査を行っている。最新且つ高性能な超音波診断装置を整備し、安全かつ高水準な超音波検査を実施している。

労災病院の特徴でもある振動病検診は、振動工具を用いる林業関係者及び土木業関係者を対象に、院内検診だけではなく離島への出張検診も実施している。(2019年より休止中)

## ■スタッフの紹介

臨床検査科部長 野中博章  
病理診断科部長 力武美保子  
中央検査部長 篠原弘文

主任臨床検査技師  
山口千佳、尾方一仁、草野睦士、川内 匡  
山口真希

臨床検査技師  
計23名(正規・嘱託・再雇用含む)  
受付事務員 1名(ニチイ派遣)

## ■認定・資格取得状況

病理医：力武美保子  
細胞検査士：草野睦士、岡部寛央、布袋大輔、蒲地貴嗣  
認定病理検査技師：草野睦士  
感染制御認定微生物検査技師：尾方一仁  
認定臨床微生物検査技師：尾方一仁  
二級臨床検査士(微生物)：尾方一仁、山口真希  
遺伝子分析科学認定士(初級)：尾方一仁  
精度管理責任者：篠原弘文、川内 匡、山口真希、井手一徳  
臨床実習指導者：篠原弘文、安田貴気  
超音波検査士(循環器)：篠原弘文、山口千佳、宮崎泰寛、土橋真理  
超音波検査士(消化器)：櫻木博美、岡部小夜  
JHRS 認定心電図専門士：宮崎泰寛  
心電図検定2級：山口真希  
認定管理検査技師：井手一徳  
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者：草野睦士、川下勝希  
認定認知領域検査技師：井手一徳  
日臨技検査説明：山口真希、井手一徳、蒲地貴嗣  
日臨技核酸増幅検査基礎学科研修受講：尾方一仁、山口真希、井手一徳  
タスクシフト/シェア講習会：尾方一仁、草野睦士、山口千佳、岡部小夜、土橋真理、山口真希、櫻木博美、田中里穂、西川佑奈

## ■2023年新規取得/認定/更新/終了研修者

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者  
川下 勝希(令和5年8月25日取得)  
タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大

臣指定講習会

田中里穂（令和5年4月9日修了）

櫻木博美（令和5年4月9日修了）

西川佑奈（令和5年9月10日修了）

山口真希（令和5年11月19日修了）

心電図検定2級 山口真希（令和5年3月1日取得）

## ■ 2024年の目標及び方針

細菌検査では、新たな細菌検出技術の導入や既存技術の改善により、感度と特異性の向上を目指すと共に、感染症の早期診断および対応の迅速化に貢献できる体制づくりを目指す。

検体検査においては、検体採取から結果報告までの全体的な時間を短縮する効率向上の実現を目指す。検体の適切な処理と保存に関するガイドラインの順守、検体の種類や数量に対応するための設備や効率的運用、スタッフの効果的配置を行う。

生理検査は、生理機能の詳細な解析やモニタリングを可能にする新しい検査法の導入や生理検査結果の患者への理解を促進するためのコミュニケーション戦略の強化、検査結果をもとにした予防的健康ケアの提案や支援の向上、専門知識の更なる向上を目指す。

検査部全体としては、最新の医学・医療技術に対する知識を追求し、専門領域での深化を図る。研修やセミナーに参加し、新しい検査法や技術の習得を目指す。専門的な資格を取得することで、スキルの向上と職場での評価を高める。

品質管理の強化として、検査の精度向上やデータの信頼性確保のために、精度管理のプロセスを常に検証し、改善を図る。検査装置の適切なメンテナンスや校正を適時実施し、結果の正確性を維持する。

コミュニケーションスキルの向上として、医療チームとの円滑なコミュニケーションを図り、患者や同僚と協力して働けるよう努める。患者に対する説明やコンサルテーションのスキルを向上させ、医療チームと協力して最良の結果を得ることを目指す。最新の研究トピックや進展に関心を寄せ、自身も研究活動に参加することで、分野における貢献を目指す。

臨床検査技師として、長期的なキャリア目標を設定し、それに向けて段階的な計画を立て、日々キャリアの中でどの方向に進んでいくかを明確にし、必要なスキルや経験を積む計画を検討する。

## ■ 2024年の重点項目

・令和4年に7年間の機器リースが終了した複数の検体検査機器が故障等により診療へ影響を与えない様、2024年度中の更新を目指す。

・超音波検査において新たな検査領域として「乳腺エコー」を開始し、乳癌の診療や健診に貢献し、市民からの要望に応える。

## ■ 業務実績

### 1. 年別臨床検査件数の推移

	R3	R4	R5
生化学	701062	706533	638558
血液	59522	60066	62681
一般	14322	18326	17434
微生物	10248	16098	10533
輸血	7353	6856	8824

### 2. 年別生理検査件数の推移

	R3	R4	R5
心電図	6621	6769	7714
ABI	197	138	173
心エコー	1796	1890	2021
腹部エコー	504	550	572
下肢血管エコー	516	612	634
頸動脈エコー	414	369	356

### 3. 年別病理検査件数の推移

	R3	R4	R5
組織診断	951	1238	1455
術中迅速診断	25	10	36
細胞診断	564	615	745

## 中央放射線部

責任者：小倉正之

### ■方針

- ・ 診療用放射線を受ける者の利益の保護、良質かつ適切な医療の提供
- ・ 診療用放射線の最適化を考慮し、適正な安全管理を行う
- ・ 医療を求める人々への奉仕
- ・ チーム医療の一員としての行動
- ・ 専門分野の責務を果たす
- ・ 人々の利益のため、向上心を忘れることなく研鑽する
- ・ インフォームドコンセントを尊重し、実践する

放射線・画像情報に携わるスペシャリストとして、安心して安全かつ適切な放射線検査を受けていただけるよう技師一同、基礎から高度の専門的技術および各種認定取得の自己研鑽に努めている。

### ■ 2023 年度評価

コロナ禍が下火になってきたかと思っただけの間で他の感染症が増加傾向になってきています。部内において複数の感染者が同時にいなかったことはスタッフの感染管理の賜物だと思ふ。

業務面では、コロナ禍前の水準までは戻りませんでしたので、院内・院外への更なる営業努力が必要です。骨密度検査は医師・看護師の協力もあり順調に増加することができている。時間外・休日においては日当直業務（2交代勤務）を行っており、救急医療に対応している。GWや年末年始の長期休暇時は勤務人数を増やし対応している。

医療安全管理資格を2名が取得し、レポート報告対策へ貢献できている。

教育面においては、3年目のRI研修1名、人間ドックMDL研修1名が終了しました。

多数の研修会がWEB形式に定着したことで容易に出席が可能になったこと、対面形式の研修会が復活したことにより知識の向上を図ることができました。また、部内研修会も月毎に開催できました。

### ■ 2024 年度目標

1.5TMRI装置が更新（2024年3月稼働予定）されます。ディープラーニングなどの最新技術をいかんなく発揮し、検査の質を向上させるよ

う、研鑽・努力をいたします。

近年、被ばくに関して職業被ばく・医療被ばくの両点から法令が厳しくなっている。放射線のスペシャリストとしての自覚を持ち、医療放射線の安全性・最適化を考慮した画像検査を行うこと、職業被ばくに関しても十分注意を払い、放射線業務環境の整備をはからなくてはなりません。

画像検査と画像診断は診療・治療になくてはならないことを強く自覚し適切な技術・知識をもって業務するよう努力いたします。特に救急医療に関して画像を最初に目にするのは撮影技師であるため、画像初見を医師に伝えることで救命救急に貢献しなければならないと考えている。

未曾有の事態に備えるべく、原子力災害訓練および講習に例年通り参加します。

### ■業務実績（人）

	2021年	2022年	2023年
一般撮影	49,100	46,316	48,332
透視検査	1,464	1,537	1,890
内科系	724	839	858
整形・麻酔科系	712	653	970
泌尿器系	28	45	62
血管造影	263	241	264
脳血管	124	118	133
心血管	111	95	87
腹部その他血管	28	28	37
血管内手術（IVR）	189	196	175
乳房撮影	783	739	774
CT	10,790	10,592	11,254
1.5TMRI	3,486	3,015	3,169
3TMRI	3,837	3,339	3,453
核医学（RI）	260	299	303
骨密度	771	1,006	1,332
病棟撮影	4,527	5,054	5,141

## ■認定資格

第1種放射線取扱主任者（国家資格）：  
高原久典、浦 秀亘、小森瑞季  
X線CT認定技師：横山貴央、松本純也、  
高原久典、益森宗士  
肺がんCT検診認定技師：横山貴央  
医療画像情報精度管理士：高原久典  
放射線機器管理士：大橋亮二  
MMG撮影認定技師：西 愛子、落合加奈子、  
白石和音  
医用画像情報専門技師：大橋亮二  
放射線管理士：高原久典  
医療安全管理者：大橋亮二、松本純也

マンモグラフィー検診 施設・画像認定

## ■スタッフ紹介

診療放射線技師 16名(男性11名 女性5名)  
受付事務 1名(派遣)  
CD担当 1名(派遣)

## ■機器構成

・一般撮影装置	3室
・骨密度測定	1室
・血管造影装置	1室
・デジタル透視装置	3室
・乳房撮影装置	1室
・CT装置（64列）	1室
・MRI装置（1.5T、3T）	2室
・核医学検査装置	1室
・回診用撮影装置	4台
・移動型透視装置	5台

## ■方針

## 理念

働く人々と地域の皆様に安全で質の高いリハビリテーション医療を提供することを目指している。

## 基本方針

- ・急性期からの充実したリハビリテーションを行っている。
- ・急性期から回復期、維持期へ向けた連続性のあるリハビリテーションを目指している。
- ・勤労者の早期職場復帰を目指したリハビリテーションを目指している。

## 人員構成

リハビリテーション科部長（兼務）  
田中奈津美 部長

第二リハビリテーション科部長（兼務）  
今井智恵子 部長

第三リハビリテーション科部長（兼務）  
北川直毅

リハビリテーション科医師  
神崎衣里  
理学療法士 18名  
作業療法士 8名  
言語聴覚士 3名  
リハビリ助手 1名

## 2023年の活動実績及び評価

当院中央リハビリテーション部では、広域支援センターの要請を受け高齢者など地域住民の方々が集まっている「地域ロン」という活動をしており、病院近隣地域の公民館に向き、疾病予防・教育・情報等、テーマに沿った講義や実技を行っている。

本年は「地域サロン」の内容の充実と標準化への取り組みを行っている。これまでは有志による担当者の裁量に委任していたため、個人により講演テーマ・内容・資料の形態（Power pointでの発表 Wordによる紙媒体での講話 資料なし）に違いがある。

今回コロナ禍明けの活動が再開されるのを機に、部全体での活動に引き上げた。そこでは12項目（テーマ）に2～3名のスタッフを割り振り資料作成・部内での発表を行い、情報の共有と意見の集約・修正を行い内容のブラッシュアップし誰もがpowerpointでの

講演を行うことが可能な環境を整備することができた。

来年度より佐世保市（自治体）が取り組む「地域リハビリテーション支援体制整備事業」として公募がなされた施設の1員として手を挙げており、行政が関わる正式な取り組みの一環として活動を繰り広げていくことが決定した。

## 2024 重点目標

## 1. 地域サロンの継続と拡充

前述した地域サロン事業の継続的な運用による地域貢献とさらに広い活動となるような推進を行えたらと思う。

## 2. 共同研究の推進

現在2施設の労災病院との共同研究に申請をさせていただいております（1施設は決定）。協力施設として円滑な研究の遂行とデータ収集を行っていきたい。またこの研究に参加させて頂いたことを機に独自の研究へと目を向けていけたらと思う。

## 3. 地域包括ケア病棟のリハビリ

地域包括ケア病棟では在宅に戻ることを目的に専従スタッフが中心となって在宅復帰に向けたリハビリテーションを提供している。

地域包括ケア病棟の対象者は2単位/日の基準が設けてあり毎月の単位数の確保を主治医・医事課・病棟看護師・MSWと連携しながら進めていきたいと思う。

## 4. 各種 勉強会・研修会参加 認定療法士 資格取得

スタッフがリハビリテーション専門職として必要な知識と技術・資格を保持・更新できるように支援し、十分な力を発揮し、成果を上げられるよう、日頃から自己研鑽に励めるような環境作りに努めていきたいと思う。

## チーム体制

疾患別でのチーム制を整備しており、各病棟単位にてチームを形成し、より良いリハビリテーションを提供できる体制を構築している。

心大りハ（呼吸 感染症）

脳外・脳血管疾患（がん 内科）

運動器（一般整形・脊椎/脊髄疾患）

地域包括

ICU

## 特徴

当院中央リハビリテーション部は、昭和32年5月に開設された県下で最も古い歴史と伝統があり、地域医療と勤労者医療を行っている。地域包括ケア病棟を持った急性期病院であり、超早期から活動を取り入れたリハビリテーションを積極的に実施している。病棟や訓練室では、車いすに変わる立位移動補助具（アクティーモNR）や当院オリジナル機器を利用することで、早期ADL自立を目指している。また、地域活動にも力を入れ、市民公開講座や医療・福祉・保健関係者対象の研修会、地域住民の介護予防講座なども積極的に行っている。

## 認定資格

呼吸療法認定士：島崎功一、梶川大輔、山戸隆二、松瀬瑞恵、赤城日沙、廣田勝也、本田泰丈、迫田健一、松田俊之、和田政範、緒方友里夏

心臓リハ指導士：島崎功一、松瀬瑞恵、梶川大輔、本田泰丈

心不全療養指導士：和田政範、奥野由唯

認定理学療法士：  
（脳卒中） 本田泰丈、松田俊之  
（循環器） 島崎功一、松瀬瑞恵  
（呼吸器） 山戸隆二  
（運動器） 廣田勝也、菅原 剛、松田俊之

認定作業療法士：久保田智博

認知症ケア管理指導士：赤城日沙

がんリハ研修修了：島崎功一、平山大輔、梶川大輔、野見山拓也、山戸隆二、豊永修輔、松瀬瑞恵、赤城日沙、廣田勝也、本田泰丈、迫田健一、松田俊之、和田政範、平山翔悟、山口佑矢、奥野由唯、塚本倫央、久保田智博、緒方友里夏、馬場貴士、中屋公汰、尾坂愛菜、森 那美、田中玲子、森ひらり

## 2023 新規資格取得

心不全指導士：福毛真澄

リンパ浮腫研修 E-LEARN：赤城日沙

がんリハ研修：菅原 剛、福毛真澄

## 看護部

責任者：柏木美佐子

### ■ 2023 年度の目標及び方針

#### 看護部理念

私たちは、(対象の) いのち、くらしに寄り添い、誠実な看護を提供します。

#### ■ 基本方針

1. 病院の理念・基本方針を基盤に、患者家族を最優先に考え、看護に専念します。
2. 人権を尊重し、だれからも信頼される（安全・安心）な看護を提供します。
3. 地域住民が、自宅で安心して療養できるよう（入院前から退院後も）地域との連携・継続看護を目指します。
4. 生き生きと働き続けることができる魅力ある職場環境を目指します。
5. 信頼される看護を提供するために、自己のキャリア開発に努め、共に学び育つ環境を作ります。
6. 多職種との連携を図り、チーム医療を推進します。
7. 勤労者の健康支援活動及び治療と仕事の両立支援を推進します。

#### ■ 2023 年度の看護部年間目標

1. 入院前から退院後までの継続看護の実践に取り組み、在宅・生活復帰支援に向けた役割を遂行する。
2. 急性期ケアミックス型病院としての役割を果たすために、病院経営に積極的に参画する。
3. 超高齢化社会に対応できる体制を強化し、看護の質を向上する。
4. 看護の専門性を追求し、学びを成長につなげることができる。
5. ワークライフバランスの実現のため、業務改善に積極的に取り組む。

#### ■ 2023 年度看護部活動の概要

今年度は、看護の質向上と効率化を目指し取り組んだ。まず、現状分析から4つの課題を抽出しプロジェクトを立ち上げた。そして、看護師長と看護師長補佐を振り分け看護管理研修の位置づけとした。

4つのテーマは、「キャリアラダーの見直し」「看護過程展開の見直し(クリニカルパスの活用)」「入退院支援体制の見直し」「看護提供体制の見直し」である。

1年で行うには大きなテーマであったが、それぞれにできる改善から実施した。キャリアラダーの見直しでは、目指す看護師像を確

認しそれぞれのラダーの目標と学習内容を抽出した。「看護過程展開の見直し」では、実践の中で不十分だった看護過程の展開ができるようにシステムや書式を変更した。

また、クリニカルパスがオーダーパスになっていたため、診療過程や看護過程を展開できる道具として各部署1つクリニカルパスを作成し、使用している。

「入退院支援体制の見直し」では、外来、入退院前方支援、病棟、退院支援の連携と効率化を目指して現状分析から実施した。入院翌日カンファレンス、退院支援カンファレンスなどそれぞれの目的と内容を精査し改善に取り組んでいる。

「看護提供体制の見直し」としては、看護師にアンケートを実施し、現在のPNSの評価を行った。そして、PNSの良い点、改善点を明確にした上で見直しを図り、「N式固定チームペアナーシングシステム」を構築した。

また、プロジェクトとは別に電子カルテを最大限に活用するために活用方法を含め、便利な機能を周知した。また、超高齢化社会に対応できる体制の強化として「院内デイケア」を立ち上げた。再雇用看護師の協力も得られた。

看護部全体で同じ方向をめざし活動することができた。今年度の成果を来年度に活かし、看護部全体で看護の質向上と効率化をめざし、一人一人が「共に学び共に育つことができる」環境を整えていきたい。

(成果の詳細は看護部実践報告2023に掲載)

### ■ 2023 年度活動実績

#### 1. 就業状況

表1 看護部職員状況(2023年4月現在)

	看護師	准看護師	看護補助者	合計
正規	299	0	0	299
嘱託	28	1	26	55
再雇用	4	0	0	4
合計	331	1	26	358

表2 2023 年度退職者数および離職率

	退職者数 (うち定年・転任)	離職率
正規	17 (2)	6%
(うち新卒)	0	0%

#### 2. 実習生の受け入れ

表3 看護実習生受け入れ実績

学校名	延べ人数
佐世保市立看護	414
九文専攻科	267

### 3. 中高看学生の職場体験受け入れ

表4 中高生 職場体験受け入れ実績

学校名	人数	実施日
熊本労災看護専門学校	3	2024.8.2
佐世保北高等学校	6	2024.3.7
佐世保西高等学校	2	2024.3.7

表6 長崎県看護協会等主催研修 参加実績

研修名	参加者	
認定看護管理者研修（ファーストレベル）	岩永佐和子	前川妃史
認定看護管理者研修（セカンドレベル）	弥富裕子	福田泰弘
医療安全管理者養成研修	弥富裕子	西川亜希
日本看護協会通常総会	福田由美子	

### 4. 研修受講状況

表5 労働者健康安全機構 参加実績

研修名	人数
管理職2年目研修	2
医療安全対策研修	1
管理者研修I	3
新人看護職教育担当者研修	1
継続教育担当者研修	1
中堅看護師研修	12

### 5. 院外講師派遣実績

表7 院外講師等派遣実績

実施日	氏名	研修会名	依頼元・対象
2023.4.13・19・27	福井良枝	医療安全の実際と分析(感染管理)	佐世保市医師会看護専門学校
2023.5.23	鶴妃菜乃	総合的な探求の時間	長崎県立清峰高等学校
2023.5.26	福井良枝	新人看護職員集合研修「感染防止の基礎知識」	長崎県県北ブロック協議会
2023.7.6	福井良枝	感染管理研修「侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際」	長崎県看護協会
2023.8.2	水町育代	2023 看護への道フェア	長崎県看護協会
2023.8.2	高橋勇貴	2023 看護への道フェア	長崎県看護協会
2023.8.2	東 穂理	2023 看護への道フェア	長崎県看護協会
2023.9.30	満菌美考	ストーマケアに関する症例検討会	株式会社ホリスター
2023.10.12・19	松浦真由美	医療人材確保に向けた取り組み	西海市包括支援課
2023.10.12・19	西川亜希	医療人材確保に向けた取り組み	西海市包括支援課
2023.10.12・19	福田由美子	医療人材確保に向けた取り組み	西海市包括支援課
2023.10.13	福井良枝	長崎県新型コロナウイルス対応人材育成研修	長崎県長寿社会課
2023.10.14	福丸由美子	施設職員交流会	長崎県看護協会県北支部
2023.10.28	前川宏司	手術看護認定看護師研修会	長崎県看護協会
2023.11.16・18	満菌美考	九州ストーマリハビリテーション講習会	九州ストーマリハビリテーション
2023.11.17	蒲池有加	両立支援コーディネーターのための事例検討会	長崎県産保センター
2023.12.9	本竹由香里	看護スキルアップ研修	長崎県看護キャリア支援センター
2023.12.21	柏木美佐子	医療安全管理者育成研修	長崎県看護協会
2024.2.6	水町育代	災害支援ナース養成研修	長崎県看護協会
2024.2.8	福井良枝	厚労省「感染症対策のための実地での研修」	長崎県看護キャリア支援センター
2024.3.7	福井良枝	厚労省「感染症対策のための実地での研修」	長崎県看護キャリア支援センター

## ■基本方針

1. 医療機器の中央一元管理にて、機器運用の効率化に努めている。
2. 医療機器の日常の保守・点検を実施し機器の安全使用に努めている。
3. 医療機器の医療従事者への安全使用のための研修・教育を行い、事故防止に努めている。
4. 医療機器の安全使用の情報収集とスタッフ間の共有化を図っている。

## ■特色

平成20年に臨床工学部が設置され、2名の臨床工学技士で医療機器管理業務を行っています。管理医療機器は年々増加し、現在では800台を超える医療機器を管理している。

また、臨床業務では、高気圧酸素治療業務、循環器業務(心臓カテーテル・ペースメーカ)、集中治療業務、手術室業務など緊急対応を含めて対応している。

## ■業務内容

- ・ 麻酔科と合同カンファレンス実施(毎朝)
- ・ 医療機器管理(一元管理)
- ・ 高気圧酸素治療
- ・ 循環器業務(心臓カテーテル治療・ペースメーカ治療)
- ・ 集中治療業務(人工呼吸・急性血液浄化・補助循環装置・各種生体情報モニタ等)
- ・ 手術業務(各種術中神経モニタリング対応・ナビゲーション対応・手術室機器管理)
- ・ 麻酔科業務(高周波熱凝固治療・高周波パルス治療・脊髄刺激療法SCS)
- ・ アフレシス療法(腹水濾過濃縮再静注法・顆粒球吸着療法等)
- ・ RSTチーム活動(月曜日)
- ・ 職員への教育(新人看護師教育・新規導入機器・看護部依頼等)
- ・ 委員会参加  
運営会議、経営改善推進委員会、リスクマネジメント委員会、手術部・救急集中治療部運営委員会、機器等整備委員会、医療ガス安全管理委員会、放射線安全管理委員会、院内教育研修委員会、医師・看護師業務負担軽減対策委員会等

## ■2023年活動実績(主な臨床業務)

高気圧酸素治療	339回
持続血液濾過透析	7症例(35日)
PMX	6症例(9回)
腹水濃縮再静注法	2回
心臓カテーテル総件数(PCI)	83件(39)
ペースメーカ植込み	23件
ペースメーカ交換	10件
PM/ICD/CRT-MRI 立ち合い	30件
PM-手術対応	16件
大動脈内バルーンパンピング	9件(21日)
ECMO(V-A)	1件(4日)
術中神経モニタリング	24件
術中ナビゲーション	14件
低体温療法	1件
麻酔科高周波治療	67回

## ■スタッフ紹介

## 寺尾嘉彰

臨床工学部部長／副院長／麻酔科部長／中央手術部部長／医療安全管理室長

## 吉田浩二

主任臨床工学技士／医療機器安全管理責任者  
高気圧酸素治療専門技師  
臨床高気圧酸素治療装置操作技師  
呼吸療法認定士  
第2種ME技術者  
透析技術認定士  
第2種ME技術者  
特定高圧ガス取扱主任者  
看護師

## 宮崎 健

臨床工学技士  
宮崎 健  
呼吸療法認定士  
透析技術認定士  
第2種ME技術者

**■ 2024 年の目標及び方針**

栄養管理室では、患者の治療を栄養面から支える役割がある。

病態にあわせた食事提供、入院時に栄養評価を行い栄養管理が必要な患者の定期的な栄養評価・栄養管理計画書の作成、食生活改善が必要な方などの栄養指導、チームの一員として栄養サポートチーム活動、褥瘡対策チーム等のチーム医療への参加を行っている。

健康の維持・増進、疾病の予防や治療の面からサポートするために栄養指導の強化や、安心・安全な食事提供に努めていきたい。

**■ 2024 年の重点項目****1. 栄養指導業務の強化**

栄養指導は病気の進行防止や回復、予後の経過で大きな役割を担っています。現在栄養指導にたずさわっている管理栄養士は2名で行っている。欠員していた管理栄養士の補充を予定しているため、給食管理、栄養評価・栄養管理計画書作成業務、栄養指導と段階を経て栄養指導を行える管理栄養士数を増やしていきたい、患者サポートをしていきたい。

**2. 給食管理の強化**

当院では直営で給食管理を行っています。2023年は新規採用者や派遣者の入職があり、安心・安全な食事提供を行う上で給食管理の重要性を感じています。部内での研修や情報の提供などの強化を行っていきたい。

**■ 2023 年の評価**

栄養指導は入院、外来合計448件/年の個別栄養指導を実施。前年より栄養指導件数増加。栄養サポートチームにおいても件数増につながっている。

褥瘡対策チームのカンファレンスや摂食嚥下カンファレンスへ継続的に参加できている。

**■ 認定資格取得**

日本糖尿病療養指導士：廣瀬妙子

日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士：  
古川志穂

日本病態栄養学会 病態栄養専門管理栄養士：  
廣瀬妙子

**■ 2023 年 活動実績（主な臨床業務）****■ スタッフ紹介**

栄養管理室長（総務課長）：田里茂雄

管理栄養士：廣瀬妙子、古川志穂、本多優衣  
調理師：8名

調理補助員：12名（派遣含む）

**■ 特色****給食管理**

献立作成、発注業務、検収、調理作業等を行っている。患者様の病態や嚥下状態にあわせた食事を提供し、季節にあわせた行事食を行い、朝食は通常和食を用意していますが、洋食の対応も行っている。

**栄養管理**

栄養管理計画書の作成、栄養指導の他に栄養サポートチーム、褥瘡対策チームのラウンドや摂食嚥下カンファレンスに参加し、患者様のサポートを行っている。

# IV 研究業績

内科・呼吸器科・感染症内科	57	麻酔科・救急集中治療科	62
消化器内科	57	病理診断科	64
循環器内科	57	健康診断部・アスベスト疾患ブロックセンター	64
整形外科	57	薬剤部	64
外科	58	中央放射線部	65
脳外科	60	中央リハビリテーション部	65
泌尿器科	61	中央検査部	65
皮膚科	62	臨床工学部	66
耳鼻咽喉科	62		

...





## 内科・呼吸器内科・感染症内科

### 著書・学術論文等

Antigen-specific cytokine profiles for pulmonary Mycobacterium avium complex disease stage diagnosis.

Yoshiro Yamashita, Ikkoh Yasuda, Takeshi Tanaka, Toru Ikeda, Mayumi Terada, Masahiro Takaki, Yoshiko Tsuchihashi, Norichika Asoh, Yukiko Ohara, Shymaa Enany, Haruka Kobayashi, Sohkiichi Matsumoto, Konosuke Morimoto.

Front Immunol 2023 Jul 14;14:1222428. doi: 10.3389/fimmu.2023.1222428. eCollection 2023.

### 学会・研究会等

日本脳炎の1例

小泉陽介、天本悠太、延末健一、本田章子

山領 豪、池田 徹

第340回日本内科学会九州地方会 福岡  
2023.1.21

## 消化器内科

### 学会・研究会等

1. 潰瘍性大腸炎患者アンケートによる高齢者・若年者別治療意向の比較検討～理想のSDM構築を目指して～

ト部繁俊、北川和希、吉村映美、後藤貴史

第109回日本消化器病学会総会

出島メッセ長崎 2023.4.8

2. 薬剤の特徴と治療目標を意識した潰瘍性大腸炎の治療選択

ト部繁俊

第2回IBD社中の会

長崎大学病院・アルカス SASEBO ハイブリッド開催 2023.1.27

### 座長：学会・研究会

1. 後藤貴史 県北エリアB型・C型肝炎WEB講演会 肝がん撲滅に向けた県北エリアでの取り組みと課題について アルカス佐世保 2023.9.28

2. ト部繁俊 佐世保市薬剤師会生涯教育Web講演会 薬剤の特徴と患者治療目標を意識した潰瘍性大腸炎の治療戦略 アルカス SASEBO 2023.10.26

3. 後藤貴史 佐世保HBVフォーラムWEB開催 B型肝炎治療の実際 ～当院での再活性

化の対策も踏まえて 佐世保ワシントンホテル  
2023.12.21

## 循環器内科

### 学会・研究会等

1. 心不全を契機にトランスサイレチン型 (ATTR) 心アミロイドーシスの診断に至った1例

吉田 智、山佐稔彦、貝原宗平、池田聡司、

河野浩章、前村浩二、力武美保子

第340回日本内科学会九州地方会  
福岡 2023.1.21

2. 急性家壁心筋梗塞に心室中隔解離を北した1例

谷真太郎、吉田 智、山佐稔彦、池田聡司、

河野浩章、前村浩二

第343回日本内科学会九州地方会

長崎 2023.11.26

3. 新しい高血圧症治療薬の一手

谷真太郎

Hypertension Web Symposium

佐世保 2023.9.6

4. 循環器内科医が診る糖尿病診療

山佐稔彦

Diabetes Update ～人生100年時代の糖尿病診療を考える～ 佐世保 2023.9.20

5. 脂質異常症治療 ～冠危険因子としの高中性脂肪血症～

山佐稔彦

北松浦医師会学術講演会 松浦 2023.11.29

### 座長：学会・研究会

1. 山佐稔彦、県北循環器連携学術講演会

佐世保 2023.2.28

2. 山佐稔彦、第一回長崎県北フレイル・サルコ

ペニア研究会 佐世保 2023.10.18

## 整形外科

### 学会・研究会等

1. 胸腰椎化膿性脊椎炎に対する前後方固定術の有用性の評価～起炎菌の同定に着目して～

馬場秀夫、山田周太、今井智恵子、貞松毅大、

笠原 峻、郷野開史、小西宏昭

第52回日本脊椎脊髄病学会 札幌 4.13-15.2023

Journal of Spine Research,14(3).383.2023

2. 65歳以上、75歳以上で頸椎前方固定術行った症例の治療成績についての比較検討

- 貞松毅大、馬場秀夫、山田周太、今井智恵子、郷野開史、井上孝之、小西宏昭  
第 52 回日本脊椎脊髄病学会 札幌 4.13-15.2023  
Journal of Spine Research 14(3).501.2023
3. 高齢者の胸腰椎損傷に対する後方固定術の検討  
郷野開史、馬場秀夫、井上孝之、貞松毅大、今井智恵子、山田周太、小西宏昭  
第 52 回日本脊椎脊髄病学会 札幌 4.13-15.2023  
Journal of Spine Research,14(3).694.2023
4. 胸腰椎化膿性脊椎炎に対し罹患椎体へ経皮的椎弓根スクリューを挿入した前後方固定術の治療成績  
馬場秀夫、山田周太、今井智恵子、貞松毅大、笠原 峻、郷野開史、井上孝之、小西宏昭  
第 96 回日本整形外科学会学術総会 横浜 5.11-14.2023 日本整形外科学会雑誌 97(3).S1181
5. 当院における骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術方法  
馬場秀夫、山田周太、今井智恵子、貞松毅大、笠原 峻、郷野開史、井上孝之、小西宏昭  
第 96 回日本整形外科学会学術総会 横浜 5.11-14 2023 日本整形外科学会雑誌 97(3).S787
6. 治療に難渋した胸腰椎移行部椎体破壊の 1 例  
馬場秀夫、今井智恵子、貞松毅大、郷野開史、神崎衣里、樋口尚浩；診断  
第 55 回脊椎外科同好会 淡路 8.26.2023
7. 頸椎 OPLL に合併した首下がりに対し頸椎～胸椎後方固定術後下位隣接椎間障害が出現した 1 例  
樋口尚浩、馬場秀夫、今井智恵子、貞松毅大、郷野開史、神崎衣里  
第 97 回西日本脊椎研究会 福岡 6.2.2023
8. 当院における胸腰椎移行部馬尾神経腫瘍の治療成績  
井上孝之、馬場秀夫、山田周太、今井智恵子、貞松毅大、郷野開史、小西宏昭  
第 145 回西日本整形・災害外科学会 福岡 6.3-4.2023 整形外科と災害外科 72.Suppl.1.140.2023
9. 大腿骨転子部骨折において術後髄内型に整復された症例のスライディング量に影響する因子についての検討  
橋口元一、鳥越雄史、田中奈津美、高橋良輔、吉田悠哉、藤池彰、井上孝之、弦本直治  
第 146 回西日本整形・災害外科学会、宜野湾 11.3-4.2023
10. 胸腰椎化膿性脊椎炎に対する自家腸骨を使用した前後方固定術の骨癒合率  
馬場秀夫、今井智恵子、貞松毅大、郷野開史、神崎衣里、樋口尚浩  
第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 米子 11.24-25.2023
11. 当院での軸椎骨折の治療経験  
樋口尚浩、馬場秀夫、今井智恵子、貞松毅大、郷野開史、神崎衣里  
第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 米子 11.24-25.2023

## 外科

### 著書・学術論文等

1. Multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic olanzapine for patients with metastatic breast cancer receiving T-DXd treatment: protocol for the ERICA study (WJOG14320B).  
Sakai H, Tsurutani J, Ozaki Y, Ishiguro H, Nozawa K, Watanabe K, Maeda S, Yokoe T, Imamura CK, Matsumoto K, Iwasa T, Chiba Y, Takiguchi D, Takano T. *BMJ Open*. 2023 Apr 3;13(4):e070304. doi: 10.1136/bmjopen-2022-070304.PMID: 37012013
2. The efficacy of inflammatory and immune markers for predicting the prognosis of patients with stage IV breast cancer.  
Yamanouchi K, Maeda S. *Acta Med Okayama* 2023 vol 77 37-43
3. Efficacy and safety of a dexamethasone-based mouthwash to prevent chemotherapy-induced stomatitis in women with breast cancer: a multicentre, open-label, randomised phase 2 study.  
Kuba S, Maeda S, Shibata K, Soutome S, Yamanouchi K, Matsumoto M, Tanaka A, Morita M, Hatachi T, Otsubo R, Yano H, Kawashita Y, Sato S, Taniguchi H, Kanetaka K, Umeda M, Nagayasu T, Eguchi S. *J Evid Based Dent Pract*. 2023 Sep;23(3):101896. doi: 10.1016/j.jebdp.2023.101896. Epub 2023 Jun 11.PMID: 37689451
4. 壊死を伴った乳房巨大脂肪腫（長径 20cm）の 1 例  
川口雄太、前川恭一郎、橋本敏章、力武美保

子、川原康弘、岩田 亨  
長崎医学会雑誌 98(2) : 71-76.2023

5. 開腹イレウス解除術と腹腔鏡下胆摘を二期的に行った胆石イレウスの1例  
川口雄太、前川恭一郎、橋本敏章、北川瑞希、力武美保子、岩田 亨  
日臨外会誌 84 (10) , 90100-90500.2023

## 学会・研究会等

1. A randomized controlled trial comparing primary tumor resection plus systemic therapy with systemic therapy alone in metastatic breast cancer( PRIM-BC): Japan Clinical Oncology Group study JCOG1017.  
Tadahiko Shien, Fumikata Hara, Kenjiro Aogi, Yasuhiro Yanagita, Michiko Tsuneizumi, Naohito Yamamoto, Hiroshi Matsumoto, Akihiko Suto, Kenichi Watanabe, Michiko Harao, Chizuko Kanbayashi, Mitsuya Ito, Takayuki Kadoya, Keisei Anan, Shigeto Maeda, Keita Sasaki, Gakuto Ogawa, Haruhiko Fukuda, Hiroji Iwata  
2023 ASCO annual meeting. Chicago. USA, 2023.06.02-06
2. Factors associated with treatment of breast cancer in the elderly: a cohort study.  
Sayaka Kuba , Shigeto Maeda , Kazuya Okada , Masahiro Oikawa , Kosho Yamanouchi , Shigeki Minami , Mitsutoshi Matsuo , Aya Tanaka , Michi, Morita , Chika Sakimura , Ryota Otusbo , Megumi Matsumoto , Takeshi Nagayasu , Susumu Eguchi  
第 61 回日本癌治療学会 横浜 2023.10.19-21
3. Evaluation of novel diagnostic kits using the semi-dry dot-blot method combined for detecting metastases in sentinel lymph nodes of patients with breast cancer: A multi-center prospective study  
R. Otsubo , M. Matsumoto , E. Inamasu , A. Tanaka , S. Kuba , M. Morita , F. Kaseida , S. Maeda , M. Nakashima , H. Ikari , S. Ohno , H. Takei , S. Eguchi , T. Nagayasu  
ESMO congress 2023 Oct 20-24 Madrid
4. Effectiveness and prognostic predictors of primary systemic therapy for de-novo Stage IV breast cancer - Supplementary analysis of JCOG1017 PRIM-BC.  
Tadahiko Shien, Akihiko Shimomura, Makoto Ishitobi, Kiyo Tanaka, Takahiro

Tsukioki, Takashi Yamanaka, Fumitaka Hara, Kenjiro Aogi, Yasuhiro Yanagita, Michiko Tsuneizumi, Naohito Yamamoto, Hiroshi Matsumoto, Akihiko Suto, Kenichi Watanabe, Michiko Harao, Chizuko Kanbayashi, Mitsuya Ito, Keisei Anan, Shigeto Maeda, Keita Sasaki, Gakuto Ogawa, Haruhiko Fukuda, Hiroji Iwata  
San Antonio Breast Cancer Symposium San Antonio USA 2023 Dec 5-9

5. VANS 手術法の普及に向けたコツとピットフォール  
前田茂人  
シンポジウム 6; 甲状腺内視鏡手術の普及に向けて  
第 35 回日本内分泌外科学会総会 松本 2023.06.15-17
6. 胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡下胆嚢全層切除術  
岡本辰哉、池田貴裕、福井彩恵子、米田晃、北里 周、竹下浩明、黒木 保  
ワークショップ 1; 胆嚢癌に対する腹腔鏡切除の適応と術式  
第 59 回日本胆道学会学術集会 松本 2023.06.15-17
7. Semi-dry dot-blot (SDB) 法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットと自動解析機に関する多施設共同臨床性能試験  
大坪竜太、田中 彩、馬場雅之、松本 恵、森田 道、久芳さやか、加勢田富士子、林 洋子、前田茂人、矢野 洋、稲益英子、萩谷朗子、関谷健太、柳原克紀、中島正洋、碓 秀樹、大野真司、武井寛幸、江口 晋、永安 武  
第 123 回日本外科学会定期学術集会 東京 2023.4.27-29
8. HER2 low 乳癌における ER との相関や予後についての解析  
前田茂人、杉山 望、三浦史郎、伊東正博  
第 31 回日本乳癌学会学術総会 横浜 2023.6.29-7.1
9. タキサン系薬剤を使用した乳がん化学療法患者における末梢神経障害発症の要因解析  
村上摩利、淵邊まりな、杉山 望、前田茂人  
第 31 回日本乳癌学会学術総会 横浜 2023.6.29-7.1
10. 肺癌脳転移加療中に発症した乳癌肝転移に対しエチニルエストラジオールの有用性が示唆された一例  
杉山 望、前田茂人  
第 31 回日本乳癌学会学術総会 横浜 2023.6.29-7.1

11. 化学療法中の乳癌患者における味覚異常の発現に関連する因子の検討  
 淵邊まりな、村上摩利、杉山 望、前田茂人第  
 31 回日本乳癌学会学術総会 横浜 2023.6.29-7.1
12. 胆石イレウスを来した胆嚢十二指腸瘻に対して二期的に腹腔鏡下手術を行った 1 例  
 川口雄太 前川恭一郎 橋本敏章 岩田 亨  
 第 59 回 日本腹部救急医学会総会 沖縄  
 2023.03.9-10
13. 腹腔鏡下に修復した右上腰ヘルニアの 1 例  
 川口雄太 前川恭一郎 橋本敏章 岩田 亨  
 第 254 回 長崎外科集談会 長崎 2022.03.18
14. IPDA 先行処理による膵頭十二指腸切除術の有用性  
 岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、  
 三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木 保  
 第 123 回日本外科学会定期学術集会 東京  
 2023.4.27-29
15. 便潜血陽性を契機に発見された上行結腸脂肪腫の一例  
 久保飛翔、岡本辰哉、岩田 亨、橋本敏章、  
 力武美保子\*、前田茂人  
 第 85 回日本臨床外科学会総会 岡山  
 2023.11.16-18
16. 虫垂周囲膿瘍と鑑別が困難であった虫垂粘液癌の 1 例  
 久保飛翔、岡本辰哉、岩田 亨、橋本敏章、  
 力武美保子\*、前田茂人  
 第 122 回 日本消化器病学会九州支部例会 沖縄  
 2023.11.24-25
17. 前田茂人 ディスカッション TNBC の周術期薬物療法  
 Breast Cancer Symposium 2023 in 長崎 出島  
 メッセ web 2023.07.19
18. 前田茂人 ディスカッション 長期生存を見据えた骨転移へのアプローチを考える  
 Advanced Breast Cancer West Japan Meeting 博多 2023.7.20

#### 座長：学会・研究会

1. 前田茂人  
 進行再発トリプルネガティブ乳癌における治療戦略 (鶴谷純司先生)、  
 第 26 回県北乳癌研究会 佐世保 2023.4.21
2. 前田茂人  
 口演 12 内視鏡手術 第 35 回日本内分泌外科

学会総会 松本 2023.06.15-17

3. 前田茂人  
 ポスター バイオマーカー (予後因子)  
 第 31 回日本乳癌学会総会 横浜  
 2023.06.29-07.01
4. 前田茂人  
 Cdk4/6 阻害薬を考える会 in Nagasaki 佐世保  
 web 2023.06.23

5. 前田茂人  
 Breast Cancer Symposium 2023 in 長崎 出島  
 メッセ web 2023.07.19

6. 前田茂人  
 佐世保 Breast Cancer Seminar 佐世保  
 2023.9.19

#### 社会活動

1. リレー・フォー・ライフ・ジャパン 佐世保 参加  
 ピンクリボン長崎および長崎労災病院  
 2023.9.9
2. 令和 5 年度 第 1 回地域医療連携懇話会  
 講演 首に創が残らない甲状腺手術 吉井  
 2023.10.19
3. 令和 5 年度 第 2 回地域医療連携懇話会  
 講演 首に創が残らない甲状腺手術 佐世保  
 2023.10.26

#### 脳外科

#### 著書・学術論文等

Evolving approaches in the management of patients with subarachnoid hemorrhage from 2002 to 2022: The impact of clazosentan and treatment modalities on outcomes  
 Hajime Maeda, Tsuyoshi Izumo, Kazuaki Okamura, Susumu Yamaguchi, Yoichi Morofuji, Takayuki Matsuo  
 Brain Hemorrhages. Available online 7 November 2023

#### 学会・研究会等

1. 脳動脈瘤コイル塞栓術中に血管閉塞をきたした 2 症例  
 竹内雅臣、前田 肇、広瀬 誠、北川直毅  
 第 37 回 日本脳神経血管内治療学会 九州地方会  
 Web, 2023.01.28
2. 脳皮質静脈血栓症により静脈性梗塞と脳内出血を繰り返した一例

竹内雅臣、前田 肇、広瀬 誠、北川直毅  
第 143 回 日本脳神経外科学会 九州支部会  
久留米 2023.03.11

MVD プリセプタープログラム 茨城  
2023.09.15

3. 頸動脈血栓内膜剥離術を第一選択とした頸動脈狭窄の治療成績  
高平良太郎、出雲 剛、松尾彩香、塩崎絵里、近松元気、小川由夏、岡村宗晃、吉村正太、諸藤陽一、松尾孝之  
第 48 回 日本脳卒中学会 学術集会 横浜  
2023.03.16

12. 静脈洞血栓症と硬膜動静脈瘻を合併した一例  
高平良太郎、前田肇、廣瀬誠、北川直毅  
佐世保脳神経外科医会 佐世保 2023.11.07

13. 感染性心内膜炎による脳塞栓症の 1 例  
高平良太郎、前田 肇、廣瀬 誠、力武美保子、北川直毅  
第 147 回 県北神経懇話会 Web 2023.11.17

4. 破裂 ICPC 動脈瘤再発に対し、後方循環系より Atlas ステントを誘導し、良好なコイル塞栓を得られた 1 例  
前田 肇、高平良太郎、廣瀬 誠、北川直毅  
第 38 回 日本脳神経血管内治療学会九州地方会 福岡 2023.07.29

14. 長崎県北での機械的血栓回収療法  
北川直毅  
地域で考える脳卒中セミナー in 県北 佐世保  
2023.7.25

5. Pcom 分岐部動脈瘤に対する血管内治療と直達手術の比較  
前田 肇、高平良太郎、廣瀬 誠、北川直毅  
第 39 回 脳血管内治療学会 京都 2023.11.23-25

15. 脳動脈瘤破裂に対するクリッピング術  
廣瀬誠  
長崎くも膜下出血研究会 長崎 2023.12.01

## 泌尿器科

### 著書・学術論文等

6. 当院における機械的血栓回収療法の治療成績  
高平良太郎、前田 肇、廣瀬 誠、北川直毅  
第 39 回 脳血管内治療学会 京都 2023.11.23-25

1. 酒井英樹：前立腺炎（急性、慢性）、今日の治療指針 2023 年版 福井次矢、高木誠、小室尾一成編  
1200-1201 医学書院 東京 2023

7. 斜台部に出血をきたした海綿静脈洞部内頸動脈瘤に対してフローダイバーター留置した一例  
高平良太郎、諸藤陽一、岡村宗晃、出雲剛、松尾孝之  
第 14 回 九州脳血管内治療勉強会 福岡  
2023.01.14

2. 酒井英樹、鈴木基文、計屋知彰、宮崎淳：総論 1 疫学、前立腺癌診療ガイドライン 2023 年版 日本泌尿器科学会編  
136-144 メディカルレビュー社 東京 2023

8. CASPER stent を用いた CAS で plaque protrusion を認めた一例  
竹内雅臣、前田 肇、広瀬 誠、北川直毅  
第 81 回 佐世保脳神経外科医会 佐世保  
2023.3.20

### 学会・研究会等

1. Association between nutritional status at admission and underactive bladder outcome. Ohtsubo A, Sagawa R, Matsuo T, Imamura R, Sakai H  
International Continence Society 2023 Metro Tronto Convention Centre 2023.09.27-29

9. 治療に難渋した海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の 1 例  
高平良太郎、前田 肇、廣瀬 誠、北川直毅  
第 44 回 長崎脳神経外科研究会 長崎  
2023.06.17

2. 入院時の栄養状態は低活動膀胱の転帰に影響する  
大坪亜紗斗、左川 遼、松尾朋博、今村亮一、酒井英樹  
第 30 回 日本排尿機能学会 千葉 2023.09.07-09

10. 高エネルギー外傷での重症頭部外傷例  
北川直毅  
令和 5 年度救急合同懇話 長崎労災病院  
2023.06.27

3. 当院での MRI 融合前立腺生検の初期経験  
大坪亜紗斗、左川遼、酒井英樹  
第 277 回 日本泌尿器科学会 長崎地方会 長崎 2023.06.10

11. 当科における MVD の成績  
広瀬 誠、高平良太郎、前田 肇、北川直毅

4. 膀胱癌診療ガイドラインのおさらい ～薬物

療法を中心に～  
大坪亜紗斗  
NAGASAKI Young Urologist summer camp  
アルカス SASEBO 2023.06.01

### 座長：学会・研究会

1. 酒井英樹  
一般講演 31：アンドロロジー・内分泌  
第 110 回日本泌尿器科学会 神戸 2023.04.21
2. 酒井英樹  
基礎部門セッション 2：研究助成受賞課題  
第 38 回前立腺シンポジウム 東京 2023.12.09
3. 左川 遼  
健康寿命を延ばす尿失禁への関わり方  
健康フェスタ 長崎労災病院 2023.10.14

## 皮膚科

### 著書・学術論文等

皮膚症状が先行した全身性サルコイドーシスの 2 例  
梶田章恵、久保田由美子、松田亜依、田代綾香  
西日本皮膚科 85:265-271 2023

## 耳鼻咽喉科

### 著書・学術論文等

1. Sphenoid sinus schwannoma with adhesion to the carotid canal.  
Yoshida H, Adachi T, Nishi H, Kitaoka K, Kumai Y.  
Radiol Case Rep.,18,2019-2023,2023
2. ステントグラフト留置が一次止血として有効であった気管腕頭動脈瘻症例  
前田耕太郎、安達朝幸、佐藤智生、熊井 良彦  
耳鼻と臨床 68 巻 443-449.2022
3. 上口唇に生じた乳腺相似分泌癌例  
久永将史、西 秀昭、安達朝幸、熊井良彦  
耳鼻咽喉科臨床 114 巻 881-885,2021

## 麻酔科・救急集中治療科

### 著書・学術論文等

1. Multiple-level retrolaminar block can provide effective analgesia in nipple sparing mastectomy with latissimus dorsi flap reconstruction: a report of two cases.  
Hiroshi Aoki, Yoshiaki Terao, Ekuko Fujimoto, Makito Oji, Natsuko Oji, Hiroki

Iwanaga, Tetsuya Hara. Journal of advances in medicine and medical research. 35, 54-59, 2023

2. Anesthetic management with remimazolam in an arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy patient with a history of stable sustained ventricular tachycardia: a case report. Hiroki Iwanaga, Hiroshi Aoki, Yoshiaki Terao, Ekuko Fujimoto, Makito Oji, Natsuko Oji, Tetsuya Hara. Journal of advances in medicine and medical research. 35, 75-83, 2023
3. Effects of mechanical insufflation-exsufflation in preventing tracheostomy for acute cervical spinal cord injury, Yoshiaki Terao, Makito Oji, Natsuko Oji, Shigehiko Urabe, Hiroki Iwanaga, Yuki Soejima, Hiroshi Aoki, Tetsuya Hara. SECC. JT-29, 2023
4. Intertransverse process block により良好な鎮痛効果が得られた胸髄神経帯状疱疹関連痛の 2 症例  
大路奈津子、大路牧人、藤本得宮子、青木 浩、寺尾嘉彰  
日本ペインクリニック学会誌 30 42-46 2023
5. 急性間欠性ポルフィリン症患者の麻酔経験  
副島悠生、新谷亮祐、村上侑、石崎泰令、東島 潮、原 哲也  
臨床麻酔 47 1030-1033 2023

### 学会・研究会等

1. Effects of mechanical insufflation-exsufflation in preventing tracheostomy for acute cervical spinal cord injury, Yoshiaki Terao, Makito Oji, Natsuko Oji, Shigehiko Urabe, Hiroki Iwanaga, Yuki Soejima, Hiroshi Aoki, Tetsuya Hara. 2nd Joint Scientific Congress of JSICM/TSCCM/TSECCM. Taipei Taiwan. 2023.10.14
2. 神経ブロック時の超音波観察を契機に診断されたグロムス腫瘍の 1 症例  
大路奈津子、大路牧人、藤本得宮子、青木 浩、寺尾嘉彰  
日本ペインクリニック学会 第 3 回九州支部学術集会 大分 2023.2.11
3. 外傷性頭蓋骨損傷後慢性痛に対して三叉神経節パルス高周波法が著効した 1 症例  
大路牧人、大路奈津子、藤本得宮子、青木 浩、寺尾嘉彰

日本ペインクリニック学会 第3回九州支部  
学術集会 大分 2023.2.11

原田弥生、原 哲也  
九州麻酔科学会  
第61回大会 福岡 2023.9.9

4. シリンジポンプ薬剤交換手技が流速変動に及ぼす影響の検証

吉田浩二、宮崎 健、寺尾嘉彰  
第50回日本集中治療医学会学術集会  
京都 2023.3.2

12. 頸椎前方固定術後の気道閉塞リスクのため  
ICU 管理継続した患者・手術因子の検討：後  
ろ向き症例対照研究

ト部繁彦、寺尾嘉彰、大路牧人、大路奈津子  
日本臨床麻酔学会第43回大会  
宮崎 2023.12.8

5. 腹腔鏡下ヘルニア根治術における腹直筋鞘ブ  
ロックの投与部位による鎮痛効果の比較につ  
いて

青木 浩、寺尾嘉彰、岩永浩貴、藤本得宮子、  
大路奈津子、大路牧人  
日本麻酔科学会第70回学術集会  
神戸 2023.6.2

13. ウルフオオツカ2法の術後鎮痛にレトロラ  
ミナブロックが有効であった2症例

青木 浩、寺尾嘉彰、鶴長容子  
日本臨床麻酔学会第43回大会  
宮崎 2023.12.8

6. ビーチチェア体位での全身麻酔下肩関節手術  
中の循環管理におけるレミマゾラムの有用性  
副島悠生、金子翔平、森本崇之、一ノ宮大雅、  
吉富修、原 哲也

第70回日本麻酔科学会学術集会  
神戸 2023.6.2

14. シリンジポンプ薬剤交換手技が流速変動に  
及ぼす影響の検証

吉田浩二、寺尾嘉彰  
2022年度九州山口地区臨床工学技士ブロッ  
ク会議 WEB 2023.3.9

7. 両側開胸下低侵襲心臓手術での人工心肺離脱  
困難に一酸化窒素吸入療法が奏功した一例  
副島悠生、一ノ宮大雅、森本崇之、金子翔平、  
原 哲也

第44回 循環制御医学会学術集会  
青森 2023.7.1

15. 不整脈原性右室心筋症患者におけるレミマ  
ゾラムを用いた麻酔管理。

岩永浩貴、青木 浩、大路牧人、大路奈津子、  
寺尾嘉彰  
長崎麻酔研究会 第18回学術集会  
長崎 2023.5.13

8. 3D プリント脊椎モデルを使用したパルス高  
周波の電場強度計測の試み

大路牧人、大路奈津子、ト部繁彦、寺尾嘉彰  
日本ペインクリニック学会  
第57回学術集会 佐賀 2023.7.15

16. 低心機能患者の腹腔鏡下腎尿管摘出術にレ  
ミマゾラムと retrolaminar ブロックで対応し  
た症例

青木 浩、寺尾嘉彰、福島浩、鶴長容子  
長崎麻酔研究会 第18回学術集会  
長崎 2023.5.13

9. (ハンズオンセミナー、インストラクター)  
TAP ブロック、RSB、M-TAPA ブロック、  
肋間神経ブロック

大路牧人  
日本ペインクリニック学会  
第57回学術集会 佐賀 2023.7.15

**座長：学会・研究会**

寺尾嘉彰（コメンテーター）  
一般講演 35 血栓・塞栓症  
日本臨床麻酔学会第43回大会  
宮崎 2023.12.9

10. 不整脈原性右室心筋症 (ARVC) 患者におけ  
るレミマゾラムを用いた麻酔管理

岩永浩貴、青木 浩、大路牧人、大路奈津子、  
ト部繁彦、寺尾嘉彰  
九州麻酔科学会  
第61回大会 福岡 2023.9.9

**外部資金獲得**

1. 労働者健康安全機構 病院機能向上のための  
研究費

ト部繁彦（主任研究者）  
課題名：股関節全置換術における大腿神経ブ  
ロックと局所浸潤麻酔の併用と鼠径靭帯上腸  
骨筋膜下ブロックと局所浸潤麻酔の併用との  
術後鎮痛効果に関する比較研究  
研究期間：2023.4.1～2024.3.31

11. 拡張型心筋症に合併したアミオダロン誘発甲  
状腺中毒症に対する甲状腺全摘術の麻酔経験  
副島悠生、鈴木未来、飛永祥平、姉川美保、

2. 労働者健康安全機構 病院機能向上のための研究費  
大路牧人（主任研究者）  
課題名：パルス高周波治療の生体内電場分布に関する人工骨モデル研究  
研究期間：2022.4.1～2024.3.31

## 病理診断科

---

### 著書・学術論文等

1. 壊死を伴う乳房巨大脂肪腫（長径 20cm）の 1 例  
川口雄太、前川恭一郎、橋本敏章、力武美保子、川原康弘、岩田 亨  
長崎医学会雑誌 2023;98(2):71-76
2. 開腹イレウス解除術と腹腔鏡下胆摘を二期的に行った胆石イレウスの 1 例  
川口雄太、前川恭一郎、橋本敏章、北川瑞希、力武美保子、岩田 亨  
日本臨床外科学会雑誌 2023;84(10):1667-1672

## 健康診断部・アスベスト疾患ブロックセンター

---

### 学会・研究会等

1. 石綿関連疾患の基礎・読影研修  
吉田俊昭、豊嶋幹生  
石綿関連疾患診断技術研修会 山口 2023.8.19
2. 石綿関連疾患の読影研修  
吉田俊昭、芦澤和人  
石綿関連疾患診断技術研修会 長崎 2023.11.13
3. 石綿関連疾患の読影研修  
吉田俊昭、芦澤和人  
石綿関連疾患診断技術研修会 佐賀 2023.11.22

### 座長：学会・研究会

- 吉田俊昭  
第 4 回日本石綿・中皮腫学会学術集会  
一般演題 3 病理・分子・画像  
長崎 2023.9.2-9.3

## 薬剤部

---

### 学会・研究会等

1. 電子カルテ移行におけるレジメン処方漏れ対策の構築とその有用性  
要 訓子、荒木美乃、馬場親紀  
第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会  
京都 2023.2.4-5

2. 当院における AST 活動と今後の課題  
安田暢子  
第 30 回長崎県病院薬剤師感染制御研修会  
長崎 2023.4.22
3. 添付文書について  
馬場親紀  
令和 4 年度 医薬品安全使用研修会  
佐世保 2023.2.17-3.20
4. 内科で汎用されている抗癌剤について  
島三保子  
7 東勉強会 佐世保 2023.3.16
5. 当院の消化器癌レジメン紹介  
～大腸癌・胃癌における内服薬を含むレジメンを中心に～  
要 訓子  
令和 4 年度 第 1 回がん薬薬連携勉強会  
佐世保 2023.3.17
6. 薬剤の基礎知識  
馬場親紀  
新人看護職研修会 佐世保 2023.4.5
7. 静脈注射研修会  
廣瀬知子  
看護師研修会 佐世保 2023.6.29
8. 骨粗鬆症治療薬  
安田暢子  
5 東病棟勉強会 佐世保 2023.9.22
9. 尿失禁と薬物療法  
廣瀬知子  
健康フェスタ 2023 佐世保 2023.10.14
10. フォルテオ皮下注キットについて  
丸田果鈴  
5 西病棟勉強会 佐世保 2023.10.26
11. 薬剤取り違い防止の取り組みについて  
植山敬生  
医療安全活動報告会 佐世保 2023.11.29
12. COVID-19 治療薬を復習しよう～インフルエンザ治療薬をそえて～  
丸田果鈴  
抗菌薬適正使用支援チーム研修会  
佐世保市 2023.12.5

## 中央放射線部

### 学会・研究会等

1. 下肢動脈、当院（うち）ではこう撮ってて、ここ困ってます！！  
土井美里  
第2回 SASEBO CT Meeting  
佐世保（WEB）2023.3.10
2. 当院における頭部3D-CTAと頭頸部3D-CTAにおける撮像方向の検討  
高原久典  
第3回 SASEBO CT Meeting  
佐世保（WEB）2023.8.18
3. 内視鏡検査時の術者の被ばく低減について  
上釜 陸  
令和5年度夏期長崎県北研修会  
佐世保（WEB）2023.9.14
4. 腰椎側面仰臥位撮影におけるFPDのアーチファクト発生についての検討  
土井美里  
機構技師会九州ブロック研修会  
北九州 2023.11.19

### 座長：学会・研究会

1. 松本純也  
下肢動脈、当院（うち）ではこう撮ってて、ここ困ってます！！  
第2回 SASEBO CT Meetin  
佐世保（WEB）2023.3.10
2. 益森崇士  
一般演題  
令和5年度夏期長崎県北研修会  
佐世保（WEB）2023.9.14

## 中央リハビリテーション部

### 学会・研究会等

1. つなぐ想いと明日への挑戦 突然の怪我により娘の卒業式に参加できなかった頸髄損傷者に対するMTDLP  
塚本倫央  
九州作業療法学会 2023in 鹿児島  
鹿児島文化センター 鹿児島 2023.7.9
2. 急性期、橈骨遠位端骨折術後患者の痛みの悪循環から早期脱却に向けて認知行動療法を行った1症例  
久保田智博  
鹿児島文化センター 鹿児島 2023.7.9

3. できるようになりたいを最大限活かす～麻痺の美容師に対する就労支援  
馬場貴士  
九州作業療法学会 2023in 鹿児島  
鹿児島文化センター 鹿児島 2023.7.9
4. 記憶障害が残存した症例に対する復職支援  
中屋公汰  
九州作業療法学会 2023in 鹿児島  
鹿児島文化センター 鹿児島 2023.7.9
5. Frankel分類C1を呈す頸髄不全四肢麻痺患者に対する急性期からの歩行歩行練習の経験  
島崎功一  
第33回長崎県理学療法学会  
アルカス SASEBO 佐世保 2023.9.3
6. 当院の自動車運転再開支援の取り組みについて  
馬場貴士  
講師 Brain Seminer  
アルカス SASEBO 佐世保 2023.6.20
7. 新型コロナウイルス患者への言語聴覚療法  
森 那美  
第51回全国労災病院リハビリテーション技師会全国研修会  
WEB 2023.6.20

## 中央検査部

### 学会・研究会等

1. 当院におけるBioFire血液培養パネル2の使用実績  
尾方一仁  
第34回臨床微生物迅速診断研究会  
長崎 2023.5.27
2. エコー検査におけるダブルチェックの取り組み  
櫻木博美  
第42回九州地区労災病院臨床検査技師会 総会・学会  
北九州 2023.10.14
3. 緊急輸血対応  
堤 早紀  
第42回九州地区労災病院臨床検査技師会 総会・学会  
北九州 2023.10.14
4. 今更聞けないタスクシフトの基本  
篠原弘文  
県南地区冬季講習会 八代 2023.2.22

## 地域活動の実績

全国検査と健康展

尾方一仁、安田貴気

シーハット大村 大村 2023.11.26

## 臨床工学部

---

### 学会・研究会等

1. シリンジポンプ薬剤交換手技が流速変動に及ぼす影響の検証

吉田浩二、宮崎 健、寺尾嘉彰

第50回日本集中治療医学会学術集会

京都 2023.3.2

2. シリンジポンプ薬剤交換手技が流速変動に及ぼす影響の検証

吉田 浩二、寺尾 嘉彰

2022年度九州山口地区臨床工学技士ブロッ

ク会議 WEB 2023.3.9

# V 病院の活動

ヘルシーエイジングへの取り組み ..... 69

I 事業報告

II 医療統計

III 診療科の特色

IV 学会研究会

V 病院の活動





# For Healthy Aging , nagasaki rosai hospital

～私たちはヘルシーエイジングに取り組んでいます～

## ヘルシーエイジングへの取り組み

超高齢社会における当院の果たすべき役割と取り組むべき課題を明確にし、職員一丸となって行動するために「ヘルシーエイジングに取り組む長崎ろうさい病院」をスローガンに掲げた。電子カルテトップページの「院長からのメッセージ」コーナーにおいてヘルシーエイジングに関する話題を連載形式で掲載し、職員への浸透を図った。

また、外部からの講師を招き、長崎ろうさい病院ヘルシーエイジングセミナーを開催し（講堂+ Web のハイブリッド）、地域医療機関へも当院の取り組みを発信した。

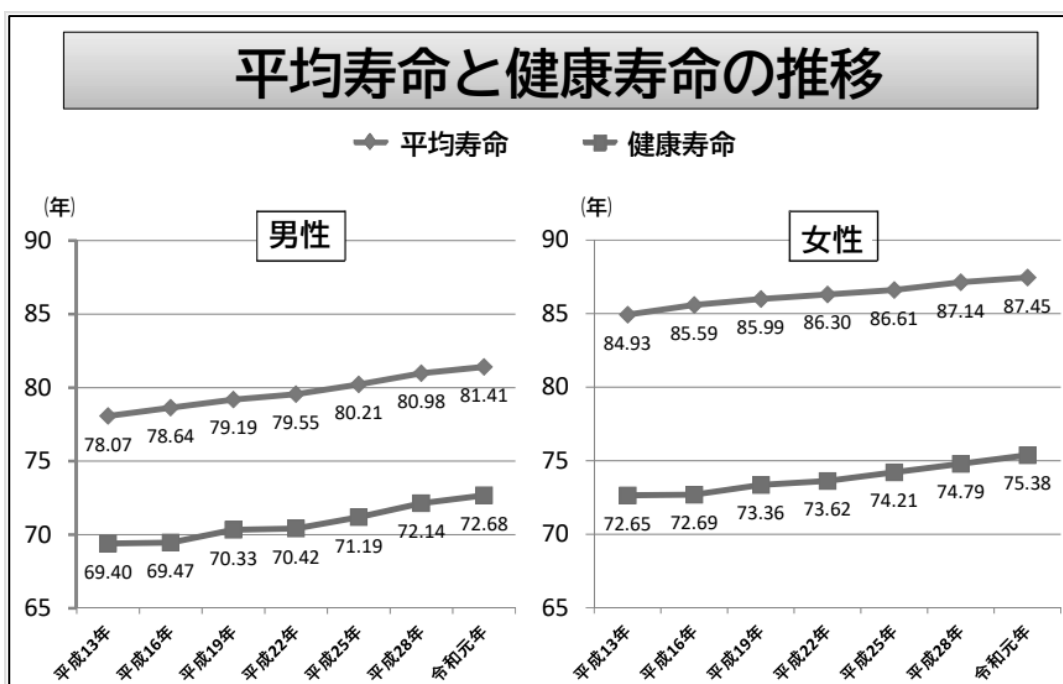
## 院長からのメッセージ

平均寿命と健康寿命 2023年1月25日  
2019（令和元）年の平均寿命は男性81.41歳、女性87.45歳です。統計が開始された1891-1898（明治24-31）年の平均寿命は男性42.8歳、女性44.3歳であったことから、わが国の平

均寿命はこの約130年間に2倍近く伸びたこととなります。

一方、健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことであり、2019（令和元）年の健康寿命は男性72.68歳、女性75.38歳です。つまり、平均寿命と比べて健康寿命は男性で約9年、女性で約12年短いこととなります。健康寿命を延ばし、平均寿命との差を短くすることが人生100年時代に生きる私たちの課題であり、願いでもあります。

治癒と機能温存を目指す治療、さまざまなリハビリテーションの充実、在宅あるいは職場復帰の支援、健康診断による疾病の予防などを通して、私たち長崎労災病院は健康寿命を延伸することに取り組んでいます。個々の患者さんや健診受診者に対して、健康寿命を延ばす医療の提供を引き続き推し進めていきたいと思います。



厚生労働省第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会 資料3-1（令和3年12月20日）

## 健康長寿とヘルシーエイジング 2023年2月3日

人生100年時代を見据え、私たちは健康長寿社会の実現に向かって健康寿命の延伸に取り組んでいます。健康寿命や健康長寿と似た意味合いの言葉に「ヘルシーエイジング」があります。

「healthy」は健康的な、「aging（イギリス英語ではageing）」は歳をとることなので、healthy aging を直訳すると健康的に歳をとることになります。Healthy aging は健康長寿と訳されることもありますが、長寿を意味する英単語としてlongevityがあるので、健康長寿にぴったりの英訳はhealthy longevityです。Healthy longevity が健康的に長生きをした結果や状態を表しているのに対し、healthy aging は人が年齢を重ねていく過程に重きを置いた言葉だと考えられます。Healthy aging の意味を日本語で適切に表すことは難しいので、これからは「ヘルシーエイジング」と片仮名で表記します。

国連は2020年12月14日に、2021年から2030年までの10年間でDecade of Healthy Ageing（ヘルシーエイジングのための10年間）と設定しました。世界的に、この50年間に約15年寿命が延びたことから、この15年間で価値あるものにするために、取り組むべき課題を挙げています。ヘルシーエイジングは地球規模の課題です。

### 長崎労災病院が考えるヘルシーエイジング① 2023年2月9日

国連は2021年から2030年までをヘルシーエイジングのための10年間と設定しました。世界的に人口の高齢化が加速する中、人々と家族、そして地域社会が健康的に歳を重ねるために、10年をかけて、政府、市民社会、国際機関、専門家、アカデミア、報道機関、民間セクター等の協調行動を促すものです。働く人々と家族のために専門的医療を提供している長崎労災病院は、ヘルシーエイジングに取り組む課題として次の4項目を挙げたいと思います。

- ① 急性期医療の充実
- ② 身体的・精神的機能の維持および回復
- ③ 社会的活動性の維持および回復
- ④ 疾病の予防および生活習慣の改善

### 長崎労災病院が考えるヘルシーエイジング② 2023年2月14日

前回、ヘルシーエイジングに取り組む重点課題として次の4項目を挙げました。これらの課題解決のためには行動が必要です。

- ① 急性期医療の充実 → 治療と機能温存を目指した専門的治療の実践
- ② 身体的・精神的機能の維持および回復 → 各種リハビリテーション
- ③ 社会的活動性の維持および回復 → 地域包括ケア／治療就労両立支援
- ④ 疾病の予防および生活習慣の改善 → 健康診断／がん検診

私たちは、①病气やけがの患者さんに専門的治療を行い、②疾患によって損なわれた機能や治療中に低下した機能を各種リハビリテーションで回復させ、③同時に地域包括ケア病床を活用した在宅復帰支援や、治療と仕事の両立支援を行っています。また、④健康診断を通してメタボリック症候群の予防やがんの早期発見を行っています。①発見されたがんに対しては適切な専門的医療を提供し、がんの二次予防に貢献しています。これらの4つの行動は互いに連携して、患者さんが自立した状態で生活できる「健康寿命」を伸ばすことにつながります。ヘルシーエイジングの視点から、日常の業務の大切さを再認識できるかもしれませんね。

### SDGs とヘルシーエイジング① 2023年2月28日



Decade of Healthy Ageing 2021-2030 は国連総会で採択されたヘルシーエイジングに関するイニシアチブ（新戦略）ですが、最近よく聞くSDGs（エスディーゼーズ）とも関連しています。SDGsは17色がリング状に配列されているシンボルマークで知られる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」です。持続可能な開発目標とは、自然環境や資源を守りながら、貧困、差別・格差、地球温暖化など、世界のさまざまな問題を2030年までに解決しようとする17の目標です。

1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、3. すべての人に健康と福祉を、4. 質の高い教育をみんなに、5. ジェンダー平等を実現しよう、6. 安全な水とトイレを世界中に、7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに、8. 働きがいも経済成長も、9. 産業と技術革新の基盤をつく

ろう、10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを、12. つくる責任 つかう責任、13. 気象変動に具体的な対策を、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさも守ろう、16. 平和と公正をすべての人に、17. パートナリシップで目標を達成しよう。

## SDGs とヘルシーエイジング ②

2023年3月6日



世界保健機関（WHO）が発表している公式文書では、「ヘルシーエイジングのための10年」はさまざまな組織や機関が協調的に、促進的に協力を続ける10年間であり、「持続可能な開発目標（SDGs）」と足並みを揃えることが述べられています。ヘルシーエイジングから見た各目標の意味合いについて紹介します。

SDGsの目標1は「貧困をなくそう」です。高齢者が貧困に陥ることを防ぐことはきわめて重要です。そのためには、柔軟な退職制度、税金による最低限の年金、生活保護や長期ケアサービスを受けられることが必要です。当機構の理念である「勤労者医療の充実」、当院の基本方針である「早期社会復帰への支援」、「治療と仕事の両立支援及び産業保健活動の推進」を実践することで、私たちも貢献できると思います。

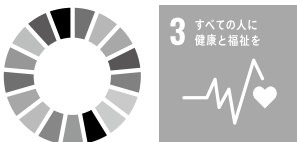
SDGsの目標2は「飢餓をゼロに」です。高齢者は食料不足に対して弱い立場にあります。それは、援助プログラムでも家族の中でも、若い人々が優先されがちだからです。日本で飢餓はほとんどないものの、「国民健康・栄養調査」<sup>2)</sup>の結果から、高齢者ほど低栄養状態に陥るリスクが高まります。高齢者への配慮は、栄養失調を改善し、ケアへの依存を防ぐことに役立ちます。

参考資料：

- 1) UN Decade of Healthy Ageing: Plan of Action 2021-2030
- 2) 令和元年「国民健康・栄養調査」の結果、厚生労働省

## SDGs とヘルシーエイジング ③

2023年3月8日



SDGsの目標3は「すべての人に健康と福祉を」です。あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することが目標であり、ヘルシーエイジングと密接に関係しています。ヘルシーエイジングとは、文字通り健康的に歳を重ねることであり、高齢者が長く社会へ貢献することを意味しています。そのためには、疾病への対応だけでなく、人生の各段階で健康を増進する機会や、万人が医療を受けられる制度など統合的な人間中心の保健・社会制度の構築が望まれます。

SDGsの目標3は「すべての人に健康と福祉を」です。あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することが目標であり、ヘルシーエイジングと密接に関係しています。ヘルシーエイジングとは、文字通り健康的に歳を重ねることであり、高齢者が長く社会へ貢献することを意味しています。そのためには、疾病への対応だけでなく、人生の各段階で健康を増進する機会や、万人が医療を受けられる制度など統合的な人間中心の保健・社会制度の構築が望まれます。

SDGsは17のゴール（目標）とそれらを達成するための169のターゲットで構成されています。目標3には9つのターゲットがあり、その中に「すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する」ことが含まれています。これは受動喫煙の防止やたばこの広告、促進販売の禁止や制限などを含む条約です。

当院の喫煙率は高く、男性20%、女性6%です。喫煙者自身のヘルシーエイジングのためにもたばこは大敵です。4月から禁煙外来が開設されますので、禁煙希望の方は利用してください。

## SDGs とヘルシーエイジング ④

2023年3月14日



SDGsの目標4は「質の高い教育をみんなに」です。高齢者がやりたいことをでき、意思決定能力を保持し、自身のアイデンティティと自立を維持するために、「ヘルシーエイジング」には生涯学習が必要です。バリアフリーで参加できて、デジタル技術のリテラシーや技能を学ぶことが望まれます。

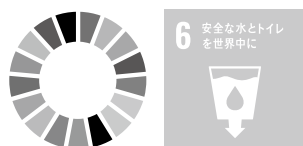
SDGsの目標5は「ジェンダー平等を実現しよう」です。生涯を通して男女平等を達成しようと努力することによって、高齢期がより良いものになるでしょう。そのような社会の仕組みによって、公平な労働力参加と年金受給が促され、高齢女性の経済的立場が向上し、社会保障を受けやすくなることにつながります。

わが国ではICT（情報通信技術）を活用して、業務を効率化し少子高齢化社会（労働力不足）に対応しようとしています。身近なところでは、タブレットやスマホを使った商品

注文、ネットショッピングやデジタル決済は日常的になりました。ヘルシーエイジングのためには、高齢者が社会の中で活躍し続けることが大切ですが、ICT用語やデジタル機器の使い方を知らなければ、社会との接点が狭くなってしまいます。ますます早くなる社会の変化に取り残されないために、ICTに限らず学習の機会が重要です。

## SDGs とヘルシーエイジング⑤

2023年3月17日



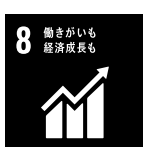
SDGsの目標6は「安全な水とトイレを世界中に」です。すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保するために、6つのターゲットが設定されています。そのひとつに、「すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女兒、並びに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。」があります。トイレ環境が整備されているわが国においても、高齢者や障害者など、弱い立場にある人々のニーズに注意を払うことは重要です。

長崎大学病院泌尿器科の松尾朋博先生は、長崎市の市民団体「みんなにやさしいトイレ会議」と協力して、排尿ができずに自己導尿を行っている人たちが安全にストレスなく導尿できる環境の整備に取り組んでいます。そのひとつとして、長崎市の支援を得てコンビニ（ファミリーマート銀屋町店）に自己導尿患者が利用しやすいトイレが設置されています。みんなにやさしい街づくりの一端ですね。

当院泌尿器科では2月から「スッキリ排尿外来」を開設しました。オシッコが近い、漏れる、出にくいなど、排尿に関する煩わしさを軽減することで、高齢者の行動範囲が広がり、社会との接点が広がることを願っています。ヘルシーエイジングへの取り組み、まずは身近なところから。

## SDGs とヘルシーエイジング⑥

2023年3月28日



SDGsの目標7は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」です。

SDGsの目標8は「働きがいも 経済成長も」です。生産年齢の人々（ここには多くの高齢者が含まれます）には、雇用の機会と適正な労働環境が提供されなければなりません。収入があれば、保健サービスを受けることや、健康製品を手に入れることが容易になります。一方、収入が少なければ健康への支出は後回しとなり、結果として病気のために高額医療出費のリスクが高まります。また、健康的な労働力は生産性を向上させ、失業を減らすことにつながります。

当院の母体である労働者健康安全機構は『勤労者医療の充実』を理念のひとつに掲げ、全国に労災病院、治療就労両立支援センター、産業保健総合支援センターを配置し、病気の治療と就労の両立支援を行っています。働く人々とその家族の健康を守ることが職業生活を守ることにつながり、ひいては働きがいと経済成長につながります。SDGsの目標8は、労働者健康安全機構の一員である私たちが正面から取り組む課題です。

## SDGs とヘルシーエイジング⑦

2023年4月10日



SDGsの目標9は「産業と技術革新の基盤をつくろう」です。ヘルシーエイジングのための基盤整備には、年齢制限のない安価なインターネットアクセスや、年齢別のデータ解析によって高齢者を可視化する研究、根拠に基づいた介入、そして新しいテクノロジーとe-ヘルスの推進が求められます。

SDGsの目標10は「人や国の不平等をなくそう」です。高齢者はしばしば、性別、民族、教育レベルのために、家庭、近隣、地域において、サービスや支援へのアクセスが不平等であることを経験します。ヘルシーエイジングのためには、すべての分野において、そのような不公平を克服する行動計画が必要です。

産業や技術革新と健康長寿とは縁遠い気がしますが、実際には身近なところで着々と進んでいます。電子カルテ、オンライン診療などは実用化されていますし、各種手術支援ロボットの開発や遠隔手術を可能にする取り組

みも進んでいます。また、わが国では海外に比べて、医療・福祉サービスにおける不平等は少ないと思いますが、「高齢者だから仕方がない」などと、高齢者に対する偏見や固定観念を持つことは避けなければなりません。

私はe-ヘルスという言葉を知りました。調べてみると、情報テクノロジーを有効活用したヘルスケアサービスのことです。ヘルシーエイジングに取り組むには勉強することが多いですね。

## SDGs とヘルシーエイジング® 2023年4月20日



SDGsの目標11は「住み続けられるまちづくりを」です。高齢者に優しい街と地域は、すべての人々が生涯を通して能力を最大限に高めることを可能にします。このような街づくりのためには、複数のセクター（保健、社会保障、運輸、住居、労働など）と、利害関係者（市民社会、高齢者と高齢者組織など）がともに参加しなければなりません。

SDGsの目標12は「つくる責任 つかう責任」です。持続可能な消費と生産のパターンをしっかりと確保することが求められます。

超高齢社会であるわが国で高齢者人口がさらに増えることを思えば、「住み続けられるまちづくり」は喫緊の課題です。高齢者に優しい街づくりには、当院へのアクセス（鉄道・バス・自動車）を容易にすることも含まれると思います。また、病院内（駐車場を含む）でのわかりやすい表示サインなど、安全な動線の確保や体に優しい待合室の整備なども大切です。

目標12のターゲットのひとつに、2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減させ、生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させることが挙げられています。世界中で取り組む課題ですが、院内でも食品や薬剤、医療材料などの廃棄を最小限にしなければなりません。

まずは身近なところからSDGsとヘルシーエイジングに取り組みましょう。

## SDGs とヘルシーエイジング® 2023年4月27日



SDGsの目標13は「気候変動に具体的な対策を」です。すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する適応能力を強化するために、緊急対策を取ることが求められています。

SDGsの目標14は「海の豊かさを守ろう」です。海洋と海洋資源の保全および持続可能な利用を強化しなければなりません。長崎県は水産県でもあります。水産資源を持続可能な形で利用するには科学的根拠に基づいた管理や規制が必要です。

SDGsの目標15は「陸の豊かさを守ろう」です。陸上生態系の保護と持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、生物多様性の維持が必要です。

SDGsの目標13から15は地球の健康を守る取り組みと考えられます。地球の生態系を保全することは地球の健康を守るために大変重要です。人間はこの生態系の一部ですが、残念ながらその破壊者でもあります。ヘルシーエイジングへの取り組みも地球の健康の上に成り立っていることを忘れないようにしたいですね。

## 5月31日は世界禁煙デー 2023年5月2日

WHOは5月31日を世界禁煙デーと定めています。タバコの煙に含まれる有害物質は、がん、心臓病、脳卒中、肺気腫、喘息、歯周病など、さまざまな病気の原因と関連していることが知られていますが、今回は膀胱がんについてお話しします。

膀胱がんは、男性に多く、高齢になるほどかかりやすい疾患です。2022年には24,800人（男性18,700人、女性6,100人）が罹患し、10,000人（男性6,800人、女性3,200人）が膀胱がんで死亡すると予測されています。膀胱がん患者の約半数は喫煙が原因であるという研究結果もあり<sup>1)</sup>、膀胱がんは喫煙と強く関連しています。タバコの煙に含まれる発がん物質は血液中に入り、全身を回った後、濃縮されて尿中に排泄されます。膀胱は尿を貯めている臓器なので、膀胱の粘膜は常に発がん物質と接触しており、がんが発生しやすく

なります。一方、禁煙により、膀胱がん罹患リスクが下がることが分かっています。禁煙はとても重要です。

5月31日は世界禁煙デー、この機会に禁煙と受動喫煙の防止をもう一度考えてみましょう。

1)Burger M, et al. Epidemiology and risk factors of urothelial bladder cancer. Eur Urol 63: 234-241, 2013

## SDGs とヘルシーエイジング<sup>⑩</sup> 2023年5月11日



SDGsの目標16は「平和と公正をすべての人に」です。年齢制限のない制度は、高齢者が、前の世代が想像できなかったことを実現することを可能にします。そのためには、年齢差別への問題意識を高めるキャンペーン、ヘルシーエイジングに関する適切な支援運動や年齢差別を防ぐための法律が必要です。

SDGsの目標17は「パートナーシップで目標を達成しよう」です。あらゆる年齢の人々の未来を創るために、ヘルシーエイジングは誰一人取り残してはいけません。多数のセクターやステークホルダーの強力なパートナーシップが必要であり、それとともに高齢者に優しい環境や統合された医療体制への投資が重要です。

SDGsの17の目標とヘルシーエイジングとの関連は今回で最後です。あらゆる人々が健康的に歳を重ねるためには、年齢にとられない、公正で平等なまちづくりが必要であり、行政、アカデミア、民間企業、地域住民が協力しなければ実現できません。あらためて、私たちは高齢者に対する偏見や固定観念を持つことを避けなければなりません。

## 5月22日は国際生物多様性の日 2023年5月22日



5月22日は国際生物多様性の日です。環境省ホームページによると、国際生物多様性の日とは、国連が生物多様性の問題に関する普及と啓発を目的として定めた国際デーです。1992年5月22日に生物多様性条約の

本文が生物多様性条約交渉会議において採択されたため、毎年5月22日を国際生物多様性の日としています。毎年この日に合わせ、世界共通のテーマに沿って生物多様性の保全や主流化に向けた普及啓発イベントが世界各地で開催されています。今年のテーマは「From Agreement to Action: Build Back Biodiversity (「合意」を「実行」に。生物多様性を取り戻そう。)」です。

地球の生態系を保全することは地球の健康を守るために大変重要です。海洋プラスチックごみ問題など、生物多様性を壊すのは私たち人間です。この機会に、今私たちができることを考えてみましょう。

## 5月31日は世界禁煙デー (WHO) 2023年5月30日

今月初めにお知らせしたとおり、5月31日は世界禁煙デーです。今年のテーマはGrow food, not tobacco (たばこではなく、食べ物が必要)です。このキャンペーンは、各国政府に対し、たばこ栽培の補助金を廃止し、その分を、食料安全保障と栄養を改善する、持続可能な作物への転換へ充てることを促すものです。また、タバコ栽培は森林破壊の5%を占め、二酸化炭素放出を増やし、気候変動をさらに進めています。

世界禁煙デーに続く1週間は禁煙週間です(厚生労働省)。今年のテーマは、「たばこの健康影響を知ろう！～望まない受動喫煙のない社会を目指して～」です。全国の自治体で、禁煙および受動喫煙防止を啓発するイベントが行われます。

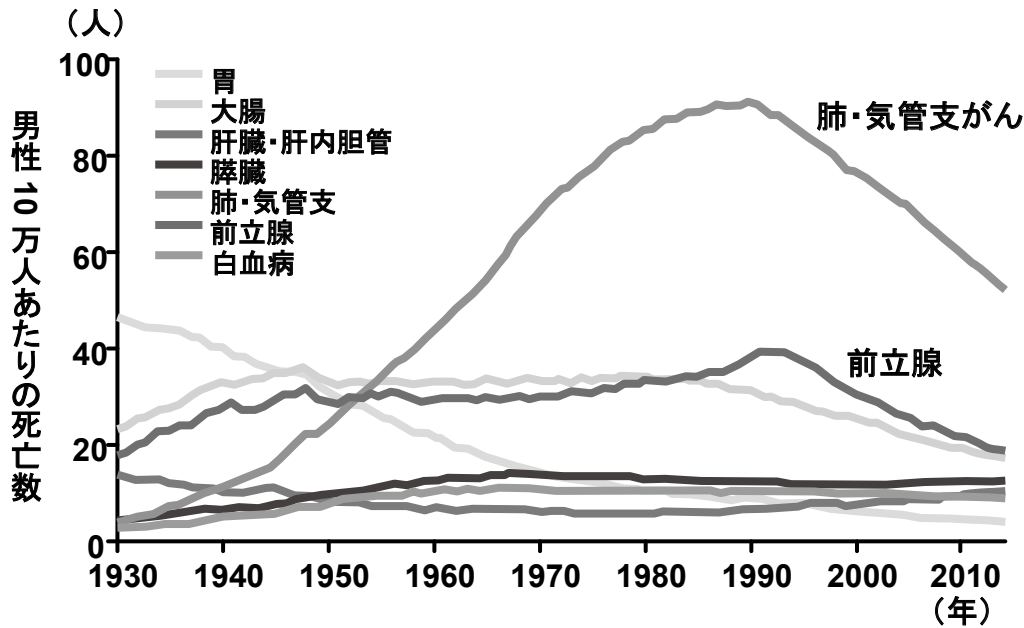
タバコの煙に含まれる有害物質は、がん、心臓病、脳卒中、肺気腫、喘息、歯周病など、さまざまな病気の原因と関連していることが知られています。この機会に禁煙と受動喫煙の防止をもう一度考えてみましょう。

## 禁煙週間は終わりましたが・・・ 2023年6月12日

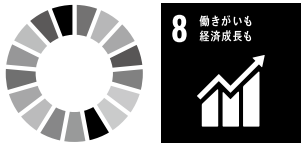
5月31日の世界禁煙デーに続く禁煙週間は終わりました。たばこはがんや呼吸器・循環器疾患など様々な病気の罹患リスクであり、人の健康を害することは明らかです。下の図はアメリカ合衆国における男性のがん死亡率を表しています。アメリカでは肺がんの死亡率が飛び抜けて高いのですが、禁煙キャンペーンにより1960年代から喫煙率が下がり、1990年頃から肺がん死亡率は減少に転

じました。今も下がり続けています。禁煙の肺がん予防効果は明らかです。ちなみに前立腺がんの死亡率も低下していますが、1980年代に始まったPSA検診の普及によるものです。

禁煙はもっとも簡単ながんの予防法です。お金もかかりません（逆に貯まります）。禁煙週間は終わりましたが、ヘルシーエイジングのために、禁煙の取り組みは続けなければなりません。



## ワークライフバランス 2023年6月30日



SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」では、2030年までに、全ての男性・女性を対象に、完全かつ生産的な雇用とディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を実現することが求められています。当院でも、全職員がディーセントワークに就いていると実感できる職場づくりを推進したいと考えています。

ディーセントワーク実現のためには仕事の充実だけでなく、職場以外での日常生活の質も向上させることが大切です。ディーセントワークに関連してワークライフバランス（work-life balance）という言葉があります。仕事と生活の調和と訳されますが、Life for WorkではなくWork for Life、つまり「働くために生きる」ではなく、「充実した人生

のために働く」ことがこの言葉の本当の意味だと思います。

スポーツや旅行などの娯楽、読書や資格取得などの自己研鑽、子育てや親の介護など、仕事以外の生活は多種多様です。仕事ばかりの生活では退職後の生活がつまらないかもしれません。退職後の人生を楽しむための準備と捉えて、今現在のワークライフバランスを考えてみるのも良いかもしれません。一人ひとりのヘルシーエイジングのために。

# 長崎ろうさい病院ヘルシーエイジングセミナー

第1回（8月3日）

テーマ：疫学研究からみた運動器の健康

講師：青柳 潔 先生（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野教授）

第2回（10月12日）

テーマ：腎生100年時代を迎えて、今、やるべきこと

講師：西野友哉 先生（長崎大学病院腎臓内科教授）

## 第1回 長崎ろうさい病院『ヘルシーエイジング』セミナー

世界に先駆けて超高齢社会に突入したわが国では、「健康寿命」の延伸が大きな課題です。また、国連は2021年から2030年までの10年間で「ヘルシーエイジングのための10年」と設定し、政府や民間セクターに、人々と地域社会が健康的に歳を重ねるための行動を促しています。当院のヘルシーエイジングへの取り組みの一環としてセミナーを企画しました。皆様のご参加をお待ちいたします。

**日時** 2023年8月3日(木) 18:00～19:00

**場所** 長崎ろうさい病院 講堂 ハイブリッド開催


当日は会場での講演をWeb会議ツール (Zoom) を用いてオンライン配信致します。会場にお越し頂いてのご参加も可能です。

**プログラム**

**開会のあいさつ** 18:00～18:05  
院長 酒井 英樹

**講演** 18:05～18:55  
座長：院長 酒井 英樹

**『疫学研究からみた運動器の健康』**

**演者**  長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
公衆衛生学分野教授  
**青柳 潔 先生**

**閉会のあいさつ** 18:55～19:00  
院長 酒井 英樹

主催：労働者健康安全機構 長崎労災病院  
お問い合わせ先：地域医療連携室 電話 0956-49-2191（内線2167）

## 第2回 長崎ろうさい病院『ヘルシーエイジング』セミナー

世界に先駆けて超高齢社会に突入したわが国では、「健康寿命」の延伸が大きな課題です。また、国連は2021年から2030年までの10年間で「ヘルシーエイジングのための10年」と設定し、政府や民間セクターに、人々と地域社会が健康的に歳を重ねるための行動を促しています。当院のヘルシーエイジングへの取り組みの一環としてセミナーを企画しました。皆様のご参加をお待ちいたします。

**日時** 2023年10月12日(木) 18:00～19:00

**場所** 長崎ろうさい病院 講堂 ハイブリッド開催


当日は会場での講演をWeb会議ツール (Zoom) を用いてオンライン配信致します。会場にお越し頂いてのご参加も可能です。

**プログラム**

**開会のあいさつ** 18:00～18:05  
院長 酒井 英樹

**講演** 18:05～18:55  
座長：院長 酒井 英樹

**『腎生100年時代を迎えて、今、やるべきこと』**

**演者**  長崎大学病院 腎臓内科教授  
**西野 友哉 先生**

**閉会のあいさつ** 18:55～19:00  
院長 酒井 英樹

主催：労働者健康安全機構 長崎労災病院  
お問い合わせ先：地域医療連携室 電話 0956-49-2191（内線2167）

## あとがき

独立行政法人 労働者健康安全機構  
長崎労災病院 副院長 前田 茂人

ご高覧いただき、誠にありがとうございます。従来の「せとごえ」は、複数年に一度の業績集としての発刊でしたが、「せとごえ 13号」からは毎年および年度内に発刊することとなりました。

この変更は、長崎労災病院の活動を迅速に院内外に公表し、幅広いご意見をお聞きすることで、より良い病院への進化を目指してのものです。内容も業績に限らず、各診療科や部門の活動、そして病院全体の取り組みも報告するようにいたしました。

2023年、長崎労災病院では、酒井院長が2年目を迎え、「ヘルシーエイジング」をスローガンとして掲げられました。この重要な取り組みに関する酒井院長からのメッセージや講演会についても、病院の活動としてご紹介させていただきました。

今後も、当院の優れた特性を活かし、地域社会への貢献や患者さんとその家族、そして地域のヘルシーエイジングへの貢献に努めてまいります。スタッフ一同、心をひとつにし、これまで以上に努力して参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(2024年3月)

---

せとごえ 13号  
長崎労災病院年報 2023 (非売品)

---

編集責任者 図書・学術研修委員長 前田 茂人  
発行日 2024年3月  
発行者 長崎労災病院  
〒857-0134 長崎県佐世保市瀬戸越2丁目12番5号  
電話 0956-49-2191(代)  
印刷 (有)エスケイ・アイ・コーポレーション

## ヘルシーエイジングのロゴマークについて

---



### 【制作者】

4西病棟看護師 西迫 智美

### 【デザインの説明】

ヘルシーエイジングの実現には、3つのフレイルが関わっています。  
その取り組みを色彩学に基づいて、配色しました。

栄養を摂ること → 健康をイメージさせる緑

社会に参加すること → 快活をイメージさせる黄色、オレンジ

運動すること → スポーティーをイメージさせる青

この取り組みを行うことで、健康寿命延伸に向けてステップアップしていく人を表現しました。  
ユニバーサルデザインのフォントを用いて、視認性と可読性を高めています。



独立行政法人 労働者健康安全機構

長崎労災病院